

静岡県 富士市

天間沢遺跡

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016年2月

富士市教育委員会

例 言

- 1 本書は静岡県富士市天間字横道下1001番1ほかにおいて実施した天間沢遺跡（第40地区）の発掘調査にかかわる報告である。
- 2 発掘調査は集合住宅（長屋）建設に先立つ事前調査として、事業者（個人）2名からの委託により富士市教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査は、平成27年（2015年）5月11日に開始し、平成27年（2015年）7月17日までの間に実施した。実際の調査掘削面積は646.4㎡である。
- 4 整理作業は平成27年（2015年）8月3日に開始し、本書の刊行をもって終了した。
- 5 発掘調査・整理作業は佐藤祐樹（富士市市民部文化振興課文化財担当）が担当した。
- 6 本書の編集・執筆は佐藤が担当した。
- 7 本書に関わる写真撮影は佐藤が行った。
- 8 調査の記録、出土遺物は富士市教育委員会（市民部文化振興課）が保管している。
- 9 発掘調査及び本書の作成にあたり、次の方々にご協力とご指導を賜りました。厚く御礼申し上げます。
池谷信之、小崎 晋、篠原 武、前嶋秀雲

凡 例

- 1 本書で用いる座標値は、世界測地系に基づく。方位（北）は座標北、標高は海拔高である。
- 2 遺構の略記号は以下の通りである。
SB：竪穴建物跡 SD：溝状遺構 NR：自然流路 SK：土坑 Pit：小穴
- 3 本書で用いる土器編年は、主として以下の文献を参考にした。
静岡県考古学会1998『縄文時代中期前半の東海系土器群』
山梨県1999『山梨県史』資料編2原始・古代2
小林達雄編2008『総覧 縄文土器』
飯能市教育委員会2015『凡例 土器の分類基準』『飯能の遺跡（42）』

目次

例言
凡例
目次

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査の経緯	1
第2節 発掘調査の経過	2
第3節 整理作業の経過	2
第4節 調査体制	2

第2章 立地と環境

第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	10
第3節 天間沢遺跡におけるこれまでの調査と基本層序	11

第3章 調査成果

第4章 総括

付表 土坑・ピット 一覧表
出土遺物観察表

写真図版
報告書抄録

挿図目次

第1章 調査に至る経緯と経過	
第1図 確認調査トレンチおよび本発掘調査区配置図	1
第2図 本発掘調査区 全体図・断面図	3
第3図 本発掘調査区 北西部分図	4
第4図 本発掘調査区 北東部分図	5
第5図 本発掘調査区 南西部分図	6
第6図 本発掘調査区 南東部分図	7
第2章 立地と環境	
第7図 天間沢遺跡の位置	8
第8図 周辺地形図	9
第9図 旧石器・縄文時代の主要遺跡分布図	10
第10図 調査履歴図	13
第11図 基本土層図	14
第3章 調査成果	
第12図 SB101	16
第13図 SB101 ビット	17
第14図 SB101 出土遺物	17
第15図 SD101	18
第16図 SD101 出土遺物①	19
第17図 SD101 出土遺物②	20
第18図 SD102	21
第19図 SD102 出土遺物	22
第20図 SD103	23
第21図 NR101	24
第22図 NR101 出土遺物	24
第23図 SK156	24
第24図 SK157・302	25
第25図 SK157・302 出土遺物	26
第26図 SK126・153・171・ 176・177・179	26
第27図 SK200・211・222・ 224・233・326	27
第28図 SK327・335・349・366・370	28
第29図 P11101~116・119~125・ 127~130・132・133	29
第30図 P11135・137~152・154・155・ 158~162・165・167~169	30
第31図 P11170・173・174・178・ 180~199・201~204	31
第32図 P11205~210・212~221・ 223・225~232・234~236	32
第33図 P11237~264	33
第34図 P11265~292	34
第35図 P11293~301・303~321	35
第36図 P11322~325・328~334・ 336~348・350~353	36
第37図 P11354~359・361~365・ 367~369・371~384	37
第38図 P11385~400	38
第39図 包含層 出土遺物	38
第4章 総括	
第40図 天間沢遺跡と周辺の縄文時代遺跡の時期	39
第41図 天間沢遺跡中心部の遺構分布状況	40

挿表目次

第2章 立地と環境	
第1表 天間沢遺跡調査履歴	12

写真図版目次

PL.1 調査	
1. 調査区発掘全景 (南から)	
PL.2 調査	
1. 遺構検出 (北東から)	
2. T.P完成全景 (南西から)	
3. S.T.r 東西セクション北壁 (南から)	
4. 調査区発掘全景 (南東から)	
PL.3 調査	
1. SB101検出 (北から)	
2. SB101南北セクション東壁 (北東から)	
3. SB101遺物 (1) 検出 (南から)	
4. SB101完成 (北から)	
5. SB101遺物検出 (北西から)	
PL.4 調査	
1. SD101・SD102遺物検出 (南西から)	
2. SD101完成 (南から)	
3. SD101遺物検出 (南から)	
4. SD101遺物検出 (西から)	
5. SD101遺物検出 (南東から)	
PL.5 調査	
1. SD102完成 (南から)	
2. SD102遺物 (42) 検出 (南東から)	
3. NR101完成 (北東から)	
4. SD103東西セクション北壁 (南から)	
PL.6 調査	
1. SK302遺物 (46) 検出 (北東から)	
2. SK302作業風景 (北東から)	
3. SK302遺物 (46) 検出 (西から)	
PL.7 出土遺物	
SB101出土遺物 (1~8)	
SD101出土遺物 (9~29)	
PL.8 出土遺物	
SD101出土遺物 (30~34)	
SD102出土遺物 (35~43)	
NR101出土遺物 (44)	
SK 出土遺物 (45~46)	
包含層 出土遺物 (47~55)	

第1章 調査に至る経緯と経過

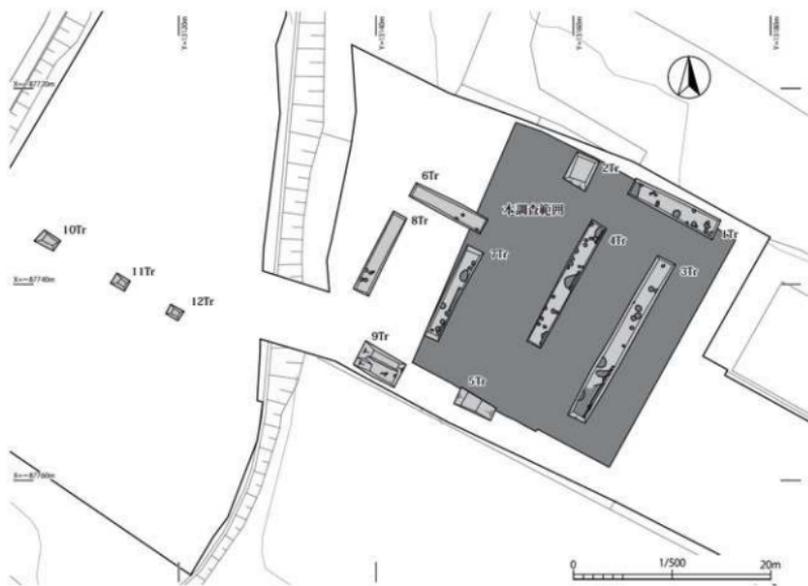
第1節 調査の経緯

事業者2名（個人）は、共同で富士市天間字横道下1001番1外において集合住宅（長屋）の建築工事を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」に該当することから、平成26年（2014年）5月19日、富士市役所土地対策課に「開発行為予備審査依頼書」を提出し、施工業者を通じて、埋蔵文化財の対応について協議を開始した。平成26年7月8日、富士市教育委員会教育長宛（文化振興課）に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」を提出した為、確認調査を実施する事となった。

富士市教育委員会では平成26年7月、8月の2回にわたり確認調査を実施し、谷部分を除いて縄文時代の遺構・遺物が確認された【平成26年7月29日付富教文発第252号、同8月25日付富教文発第312号】。

その後、埋蔵文化財の保護に向けて、調整を重ねたものの、事業を進める意思は強く、また、保護層も確保されない箇所があり、静岡県教育委員会教育長より保護の図れない部分（約880㎡）の本発掘調査を実施するように事業者に通知がなされた【平成27年1月23日付教文第1690号】。

平成27年4月6日、富士市長小長井義正を受託者として事業者2名それぞれと「平成27年度 天間沢遺跡（1）発掘調査に関わる業務委託契約」（その1）、「平成27年度 天間沢遺跡（1）発掘調査に関わる業務委託契約」（その2）を締結し、本発掘調査を実施することとなった。なお、発掘調査は富士市教育委員会の補助執行機関である市民部文化振興課が担当した。



第1図 確認調査トレンチおよび本発掘調査区配置図

第2節 発掘調査の経過

発掘調査は、平成27年5月11日～平成27年7月17日まで本発掘調査を行った。

【調査日誌（抄録）】

- 5月11日 表土掘削を調査区北東より開始。北側は地山が大規模に削平を受けていることが判明。
- 5月13日 未明、台風6号の影響で調査区水没。
- 5月15日 調査区南側で建物跡（SB101）検出。表土掘削終了。
- 5月18日 遺構検出状況の写真撮影。
- 5月20日 北側より遺構（土坑・ピット）掘削開始。並行してTS計測開始。

- 5月28日 SB101掘削開始。遺物、少量出土。
- 6月10日 SK302掘削中に曾利V式の比較的大きな土器片出土。写真撮影後、微細図面作成。
- 6月15日 遺構の掘削終了。翌日より写真清掃開始。
- 6月24日 高所作業車を使用し、完掘の全景写真撮影。
- 6月26日 テストピットを6箇所設定し、掘削開始。
- 7月2日 TS計測終了。
- 7月8日 埋め戻し作業開始。
- 7月13日 埋め戻し作業終了。
- 7月17日 事業者立会いのもと、現場を引き渡し、現地における作業を終了。

第3節 整理作業の経過

調査終了後の平成27年8月3日、富士市長小長井義正を受託者として事業者2名それぞれと「平成27年度天間沢遺跡（1）整理作業に関わる業務委託契約」（その1）、「平成27年度天間沢遺跡（1）整理作業に関わる業務委託契約」（その2）を締結し、整理作業を開始し、本書の刊行をもって終了した。

期間中に出土土器の洗浄・接合・復原、遺物の図化作業、遺構図・遺物図等の編集、各国のトレース作業、観察表等の作成、遺物の写真撮影、報告の執筆を行った。さらにこれらを編集して報告書を作成した。本書で報告する遺物・図面は富士市教育委員会（文化振興課）にて保管・管理されている。

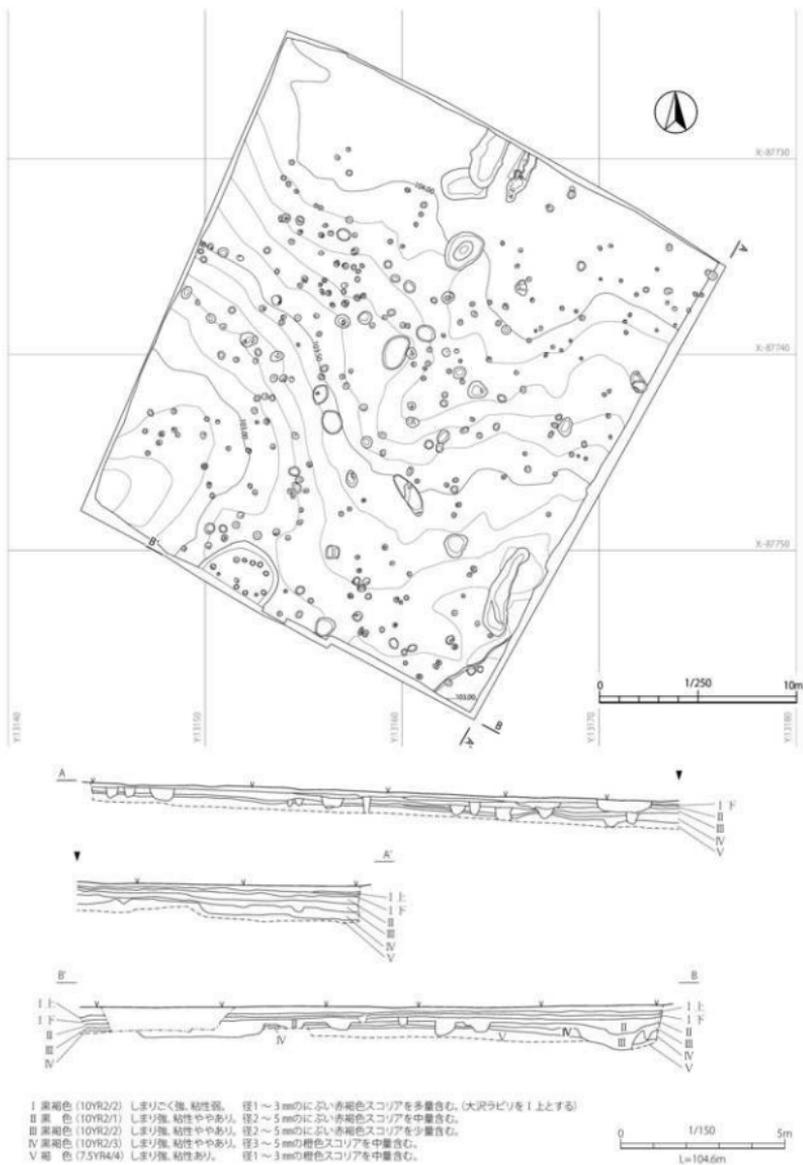
第4節 調査体制

【発掘調査】

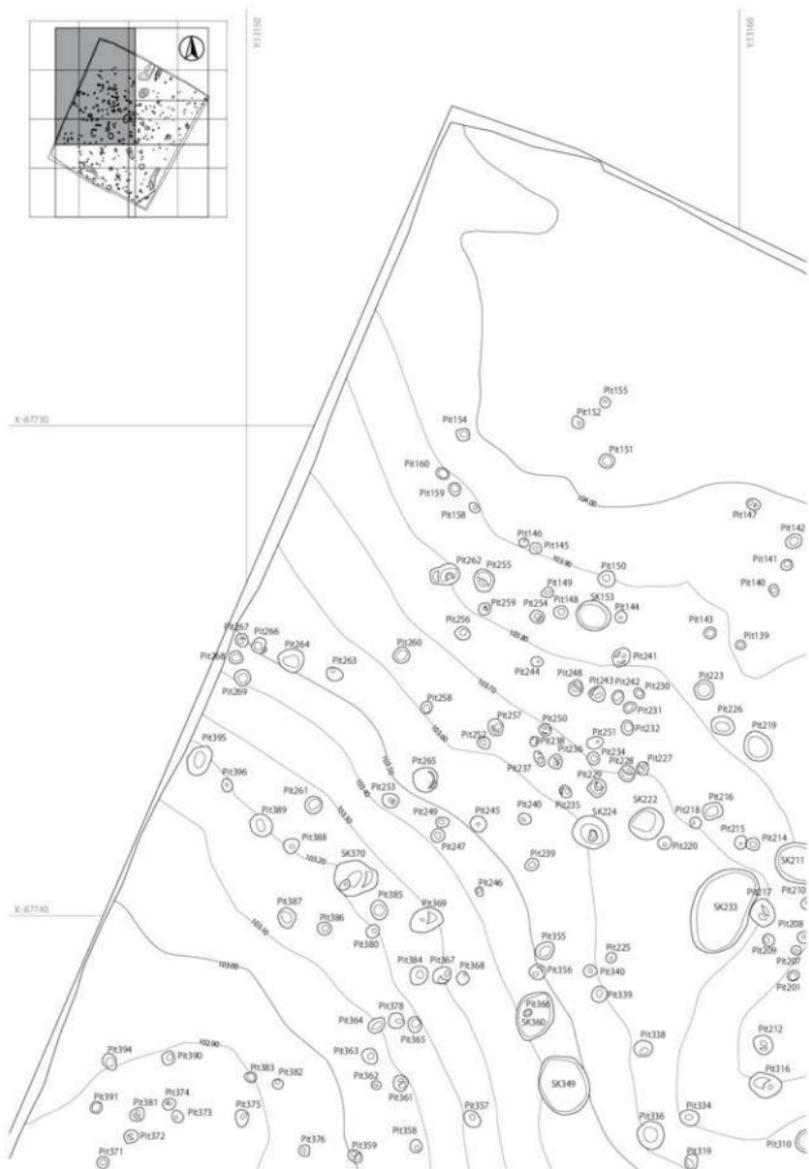
（調査主体）	富士市教育委員会	教育長	山田 幸男
（担当機関）	富士市役所市民部	部長	加納 孝則
	文化振興課	課長	町田しげ美
	文化財担当	統括主幹	前田 勝己
		専門員	渡井 義彦
		主査	石川 武男
調査担当者	上席主事	佐藤 祐樹	
	臨時職員	牧野 かつお	
測量業務委託	株式会社フジヤマ	富士営業所	
発掘作業員	社団法人富士市シルバー人材センター		

【整理作業】

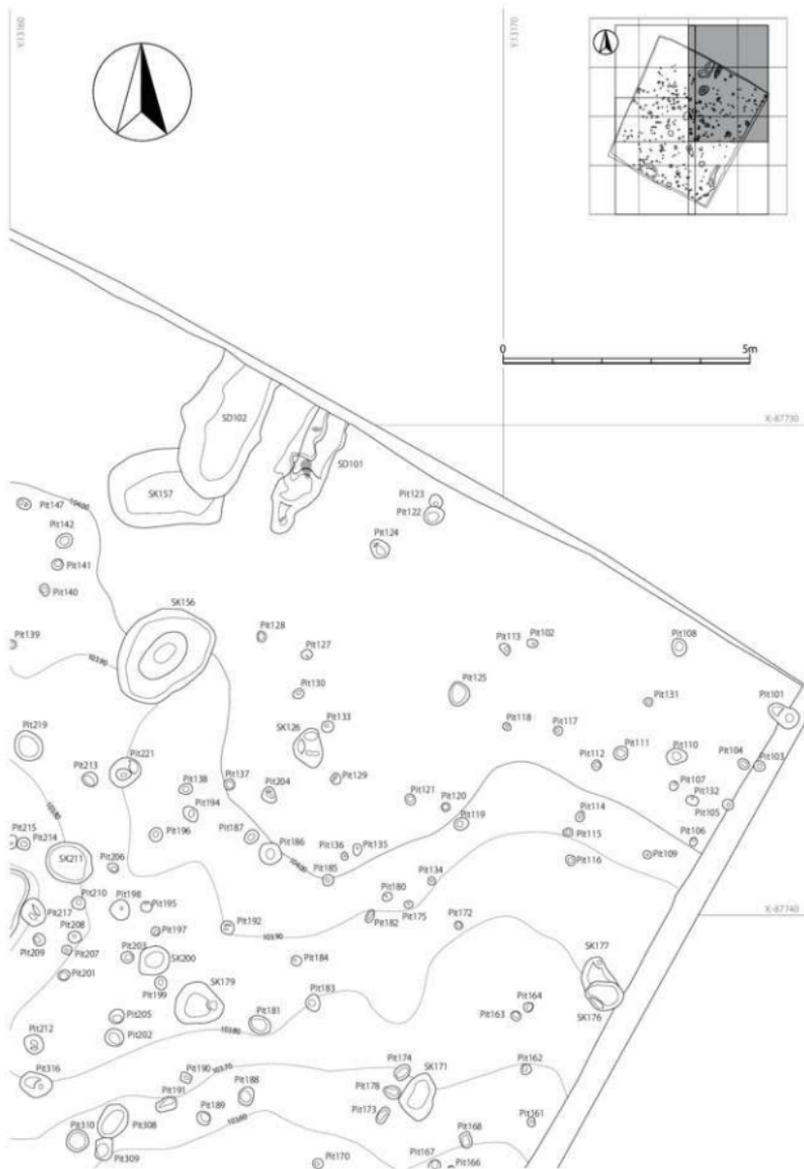
（作業主体）	富士市教育委員会	教育長	山田 幸男
（担当機関）	富士市役所市民部	部長	加納 孝則
	文化振興課	課長	町田しげ美
	文化財担当	統括主幹	前田 勝己
		専門員	渡井 義彦
		主査	石川 武男
整理担当者	上席主事	佐藤 祐樹	
臨時職員	稲葉万智子	井上 尚子	小田 貴子
	金田 純子	石川 都久子	牧野 かつお
	望月 真弓	渡辺美規子	



第2図 本発掘調査区 全体図・断面図



第3図 本発掘調査区 北西部分図



第4図 本発掘調査区 北東部分図

第2章 立地と環境

第1節 地理的環境

天間沢遺跡のある静岡県富士市は、東経138度40分35秒、北緯35度9分41秒（市役所）に位置し、東京まで146km、大阪まで410kmの県東部に位置する。北側には雄大な富士山を望み、南は駿河湾に面しており、平均気温16.7℃と1年を通じて比較的温暖な地域である。平成20年11月1日には、富士川を挟んだ富士川町と合併し、人口257,697人（平成26年12月31日現在）、面積245km²を有する県東部地域を代表する都市である。

市域は、西方に岩渕火山地、星山丘陵、北方に富士火山地、東に愛鷹火山地、南方は駿河湾と富士川河口から沼津市の狩野川まで続く田子の浦砂丘に取り囲まれ、平野部は富士川の運搬した堆積物によって形成されたデルタ地帯により形成されている。また、愛鷹火山地と田子の浦砂丘に挟まれた低地部は「浮島ヶ原低地」と呼ばれ、古墳時代以降、生産基盤として存在していたものと考えられる。

史跡「富士山」は、世界文化遺産登録に伴い文化財の側面としての保存作業が進められている。しかし、当然のことながら富士山は、大規模な噴火を伴いながら、常に形を変えながら成長を続けてきた成層火山であり、人

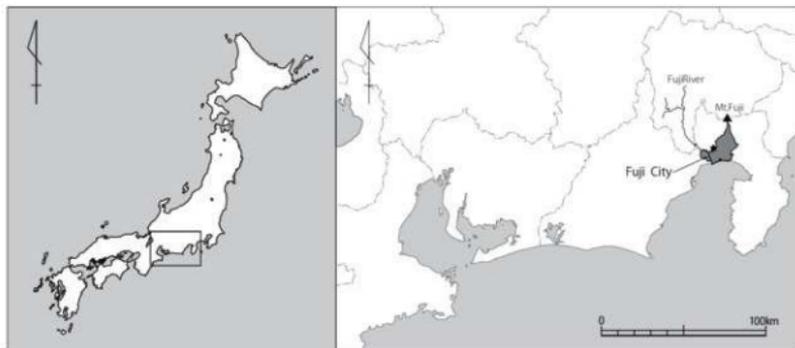
類の生活に大きな影響を与えてきた。

富士山は約10万年前から約1万年前までの「古富士の時代」と、約1万年前以降の「新富士の時代」に分けて考えられている（津屋1971）。古富士火山は小御岳火山や富士市の東部から沼津市に展開する愛鷹火山の一部を覆い、さらに新富士溶岩によって覆われている。そのため、新富士溶岩に覆われた地域における旧石器時代の調査は現実的には不可能な状況にある。

天間沢遺跡は富士山南西麓に位置し、火山麓扇状地に位置する。遺跡の北側は13,760±300yr.B.Pに噴出した新富士旧期に位置づけられる「大淵溶岩」で覆われ、さらに6,000yr.B.P頃に噴出したと考えられる入山瀬溶岩によって分割された扇状地の西側に位置する。入山瀬溶岩の東側には「大淵扇状地」と呼ばれる地形が形成されているが、縄文時代の遺跡はほとんど見られない。そのため、天間沢遺跡は入山瀬溶岩の西側、富士宮市域の遺跡動態を視野に入れて考えていかなければならない。

参考文献

津屋弘達1971「富士山の地形・地質」『富士山（富士山総合学術調査報告書）富士急行



第7図 天間沢遺跡の位置

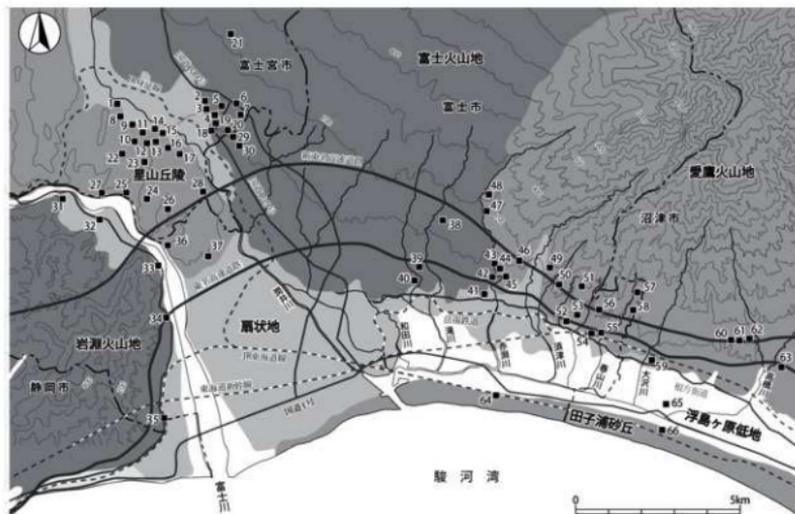
第2節 歴史的環境

人間足遺跡は縄文時代の遺跡として昭和初期からその存在が知られてきた。前述の通り、入山瀬溶岩の西側に位置し、縄文時代を考える上では、現在の富士山域の遺跡との関係を想定する必要がある。

さて、宮地直道は、新富士火山の活動時期をステージ1からステージ5の5時期に区分した(宮地2007)。それぞれの時期は、ステージ1:17,000~8,000 cal BP、ステージ2:8,000~5,600 cal BP、ステージ3:5,600~3,500 cal BP、ステージ4:3,500~2,200 cal BP、ステージ5:2,200 cal BP~現在にあたる。また、篠原武は宮地氏の区分に従いながら富士山活動と遺跡の消長についての整理を試みた(篠原2011)。具体的には、ステージ1からステージ4における富士山周辺の遺跡

数、竪穴建物数を調べ上げ、その推移から火山活動下において人類がいかに暮らしを営んできたかを長期的な視点で捉えようとした。その結果、富士山が爆発的噴火と溶岩流出をするステージ3にあたる堀之内2式から加曽利B1式にかけて、遺跡数が激減しており、その要因として富士山の火山災害が考えられる可能性を提示した。しかし、その一方で噴火の痕跡を示す直接的な調査例がないことなどの理由から遺跡数の減少要因は、生業変化による集落移転なども考慮すべきであるとした。以下、富士山南西麓における旧石器時代・縄文時代の遺跡動態を確認していくこととする。

旧石器時代の遺跡は新富士溶岩の影響から、その存在が明らかな遺跡は少ないが、古富士泥流を基盤とした千



1. 滝戸遺跡
2. 上石敷遺跡
3. 石敷遺跡
4. 狹間遺跡
5. 中ノ土手遺跡
6. 代官屋敷遺跡
7. 若宮遺跡
8. 野中向原遺跡
9. 野中中村遺跡
10. 黒田向林遺跡
11. 坊地上遺跡
12. 月の輪平遺跡
13. 月の輪上遺跡
14. 南部谷戸遺跡
15. 五反田遺跡
16. 奥山地遺跡
17. 上高原遺跡
18. 榎現遺跡
19. 上落遺跡
20. 蟹入越遺跡
21. 箕輪A・B遺跡
22. スギナクボ遺跡
23. 徳文神社遺跡
24. 明聖山遺跡
25. 外谷戸遺跡
26. 賈戸下谷遺跡
27. 忍久保坂上遺跡
28. 下高原遺跡
29. ジンゲン沢遺跡
30. 天間沢遺跡
31. 大北遺跡
32. 浅間林遺跡
33. 木島遺跡
34. 破岡射場遺跡・駿河山王遺跡
35. 大塚窪遺跡
36. 万野原遺跡
37. 念徳園遺跡
38. 三度崎A遺跡
39. 中島遺跡
40. 宇東川遺跡
41. 藤夜姫遺跡
42. 前の原遺跡
43. 花川戸遺跡
44. 向山遺跡
45. 中尾沢遺跡
46. 富士岡中尾遺跡
47. 峰山遺跡
48. 鶴無ヶ淵遺跡
49. 百間遺跡
50. 天ヶ沢東遺跡・古木戸A・B遺跡
51. 烏帽子形遺跡・中尾遺跡
52. コーカン畑遺跡
53. 愛蔵遺跡
54. 上ノ段遺跡
55. 香山遺跡
56. 丸山遺跡
57. 降ヶ沢A遺跡
58. 矢川上A・B・C遺跡
59. 吹上遺跡
60. 測ヶ沢遺跡
61. 的場遺跡
62. 秋葉林遺跡
63. 伊良宇神遺跡
64. 三新田遺跡
65. 雄鹿塚遺跡
66. 鳥沢遺跡

第9図 旧石器・縄文時代の主要遺跡分布図

居遺跡や羽船丘陵上の小塚A遺跡などでナイフ形石器などの存在が知られてきた。近年、新東名高速道路建設に伴い、星山丘陵上の下高原遺跡が調査され、斜面部から礫群3基、石器ブロック1基が調査され、ナイフ形石器に加え、尖頭器、楔形石器などの石器が出土している。これらの点的な遺跡の存在は、新富士溶岩に覆われた未発見の遺跡が存在していた可能性を示している。

縄文時代草創期に入っても遺跡の存在は少なく、羽船丘陵西側の芝川に面した大鹿窪遺跡が知られるのみである。他にも月の輪平遺跡や滝戸遺跡、上石敷遺跡、南部谷戸遺跡などから有茎石器が出土しているが実態は明らかでない。

早期に入ると星山丘陵上の黒田向林遺跡や小松原A遺跡、沼久保坂上遺跡が知られ、入山瀬溶岩西側では天間沢遺跡をはじめ、西側に隣接するジゲン沢遺跡、上石敷遺跡、石敷遺跡などで貝殻沈線文や条痕文土器が出土している。

前期に入ると遺跡の分布は星山丘陵から天間沢遺跡のある地域に移動し、早期から継続する遺跡に加え寺内遺跡や峰石遺跡など多くの遺跡が出現し始め、中期に入ると遺跡数は爆発的に増えることとなる。特に天間沢遺跡でも、勝坂式段階以降、集落形成が本格的になったといえる。

しかし、後期後半段階になると、突如、遺跡数が激減しているが、篠原の指摘するように富士山の火山災害の影響や別の要因での移動の可能性が考えられる。その後、弥生時代前期・中期ともに本格的な集落形成は認められず、その再開は弥生時代後期に突如として現れる。

参考文献

- 宮地直道 2007 「過去1万1000年間の富士火山の噴火史と噴出率、噴火規模の推移」『富士火山』山梨県環境科学研究所
- 梅原 武 2011 「富士山の火山活動と遺跡の消長・分布について」『土葬地新屋敷遺跡』富士吉田市教育委員会

第3節 天間沢遺跡におけるこれまでの調査と基本層序

天間沢遺跡の存在は、昭和2～3年ころに岳南考古学会の佐野武男による踏査により発見されてから平成27年12月までに42地点における調査が行われ、本報告地点が40地点目にあたる。調査の履歴・詳細は、すでに報告の通り(若林2015)であり、一覧表を再録することとする。

天間沢遺跡では、新富士溶岩が存在する場所とそうでない場所などによりその土層が大きく異なるが、これまでの調査により、以下の通りの基本層序となっている。なお、栗色土層や富士黒土層などとの対応ははっきりしない部分が多く、今後の課題でもある。

表土層：盛土・現耕作土・旧耕作土
古墳時代前期の遺構覆土

- I 大沢ラビリ層：黒褐色。緻密なスコリア粒子で極めて硬くしまる。

縄文時代中・後期の包含層

- II 栗色土層(KU)：黒褐色。橙色スコリア粒をやや多く、白色テフラ(カワゴ平ハミス)を少量含む。

しまりはやや強い。

縄文時代早・前期の包含層

- III 富士黒土層(FB)：黒色。橙色スコリア微粒子を微量含む。しまりはやや弱く、粘性が出てくる。
- IV 漸移層(Zn)：暗褐色。褐色味の強い土と黒味が強い土が混ざり合い、鮮やかな橙色のスコリア粒を少量含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。

旧石器時代の包含層

- V 休場層(YL)：明褐色。全体的に赤みが強く、橙色スコリア粒をやや多く含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。
- VI 古富士泥流層上層か：巨礫層主体となり粘性が強くなる。水分を多く含み、しばらく放置すると隙間に水が溜まる。

参考文献

- 若林美希 2015 「天間沢遺跡の概要」『富士市内遺跡発掘調査報告書 一平成24・25年度一』富士市埋蔵文化財調査報告 第57集 富士市教育委員会

第1表 天間沢造跡調査履歴

調査年度	地区名 (1/2地区名)	調査種別	調査期間	所在地 (所在地の名称)	調査面積 (㎡) 調査面積 (a)	種別	遺構	遺物	状況
S35	6地区-1次 (第1次 F地区の一部)	空掘	1969**	天間 1048-1 平地造成	100	縄文中層	配石遺構		
S44	1地区 (第2次 A地区)	調査	19700323 ～19700405	天間 1048 外 高尾原沢上流河川建設	300	縄文中層 縄文前期	配石遺構 埴輪跡	縄文土器・石器 土加群	2
S45	1地区 (第3次 B地区)	調査	19710910 ～19711020	天間 1047-1 高尾原沢上流河川建設	2,600	縄文中層	配石遺構・土坑5・埴輪跡1	縄文土器・石器	2
S46	3地区 (第4次 C地区)	調査	19711224 ～19720627	天間 1045-1 外 高尾原沢上流河川建設	3,400	縄文中層 縄文前期	埴輪跡11・土坑15 埴輪跡3	縄文土器・石器 土加群	2
S46	23地区-1次 (第1次 橋下下地区第1次)	調査	19711224 ～19720215	天間 905 中野川河川建設	500	縄文小～前期 縄文前期	配石遺構・埴輪跡1 埴輪跡6	縄文土器・石器 土加群	2
S47	4地区 (第6次 D地区)	調査	19721224 ～19721229	天間 977-1 高尾原沢河川建設	100	縄文中層	埴輪跡7	縄文土器 土加群	
S47	5地区-1次 (第5次 E地区)	調査	19730025 ～19730329	天間 988-1 高尾原沢河川建設	50	縄文中層 縄文前期	埴輪跡1 縄文土器	縄文土器	
S53	6地区-2次 (第7次 F地区)	調査	19730062 ～19731202	天間 1048-1 外 高尾原沢河川建設	1,053	縄文中層	高尾原沢埴輪跡2 高尾原沢土加群	縄文土器・石器	1 2
S54	24地区 (第1～V地区)	調査	19791006 ～19791116	天間 外 高尾原沢河川建設	縄文 遺構	なし		縄文土器・石器、高尾原沢土器	3
S58	17地区-1次 (第5次 G地区)	調査	19830018 ～19830419	天間 1106-1 天間川河川建設	1,142 125	なし	配石遺構1・土坑3・土坑2 埴輪跡2	なし	
S58	7地区 (第8次 H地区)	調査	19831024 ～19831028	天間 1045-5 高尾原沢河川建設	50	古墳		縄文土器	
S58	8地区 (第9次 I地区)	調査	19831107 ～19831112	天間 1130-1 天間川河川建設	50	古墳	埴輪跡物跡1		
S58	9地区 (第9次 J地区)	調査	19831114 ～19831117	天間 1121 天間川河川建設	50	縄文	なし	縄文土器	
S58	10地区 (第9次 K地区)	調査	19831118 ～19831122	天間 1028・1029 高尾原沢河川建設	50	埴輪跡	なし	土加群、埴輪跡	
S59	11地区 (K地区)	調査	19840015 ～19840031	天間 1011-1 高尾原沢河川建設	200	縄文	土坑跡5・土坑	縄文土器	
S61	12地区 (L地区)	調査	19860005 ～19860910	天間 1062-3 空地造成	750 200	縄文 古墳以降	3地区5 縄文土器	縄文土器・高尾原沢・打石群	
S62	13地区 (M地区)	調査	19870511 ～19870515	天間 1112-1 外 空地造成	2,279 150	縄文 土坑2	埴輪跡1	なし (周辺から縄文土器・土加群出土)	
S62	23地区-2次 (橋下下地区第2次)	調査	19870807 ～19870921	天間 909 外 空地造成	7,000 400	縄文	埋蔵土・土坑1・配石遺構1	縄文土器・石器	
H01	14地区 (N地区)	調査	19860005 ～19860622	天間 1061-1 外 空地造成	568 307	縄文 古墳跡	埴輪跡1001・埴輪跡1	縄文土器・石器・石斧 土加群	
H01	15地区 (O地区)	調査	19860005 ～19860915	天間 1806-2 外 農作物集積場住宅建設	4,758 600	縄文 中～後世	土坑2	縄文土器片	
H01	16地区 (P地区)	調査	19911202 ～19911211	天間 1120-4 外 天間川河川建設	1,329 695	縄文 小～前期	埴輪跡物跡	縄文土器・高尾原 土加群	
H03	17地区-2次 (Q地区)	調査	19911210 ～19920119	天間 1115-1 外 天間川河川建設	648	なし		なし	
H03	18地区 (R地区)	調査	19920116 ～19920119	天間 1043-1 外 河川河川建設	144 22	なし		なし	
H04	19地区 (S地区)	調査	19920708 ～19920710	天間 1001-4 外 共同住宅建設	905 65	なし		なし	
H04	20地区 (T地区)	調査	19911013 ～19921028	天間 1127-1 外 共同住宅建設	562 39	なし		なし	
H04	21地区 (U地区)	調査	19921020 ～19921027	天間 991-1 外 倉庫・事務所建設	2,915 194	なし		なし	
H04	22地区 (V地区)	調査	19930025 ～19930428	天間 1785-21 河川河川建設	144 40	なし		なし	
H05	5地区-2次 (第2地区)	調査	19930024 ～19930305	天間 988-8 外 共同住宅建設	1,274 300	縄文 土坑・9割・埋蔵 土坑	土坑・9割・埋蔵 土坑	縄文土器	
H14	17地区-3次 (Q地区-1次)	調査	20000908 ～20001020	天間 1117-1 外 共同住宅建設	1,633 365	縄文 土加群	埴輪	縄文土器・石器 土加群	4
H14	17地区-4次 (Q地区-2次)	調査	20000527 ～20000701	天間 1117-1 外 共同住宅建設	800 683	縄文 古墳	土坑	縄文土器 土加群	
H14	25地区 (Y地区)	調査	20000023	天間 990-1 外 共同住宅建設	635 90	なし		なし	4
H17	26地区 (Z地区)	調査	20000302	天間 937-1 外 空地造成	829 26	なし		なし	5
H19	27地区-1次	調査	20000318 ～20001020	天間 1238-1 外 空地造成	3,266 87	古墳	埴輪跡物跡2・縄文遺構1	土加群	6
H20	27地区-2次	調査	20001107	天間 1238-1 外 空地造成	2,663 27	なし		なし	4
H20	28地区	調査	20000221	天間 1107-1 外 共同住宅建設	905 56	なし		なし	4
H20	29地区	調査	20001215 ～20010222	天間 1109-1 外 空地造成	4,000 209	なし		なし	4
H21	27地区-3次	調査	20000406	天間 1242 外 集合住宅建設	1,866 13	なし		なし	7
H22	30地区	調査	20110126	天間 625-10 外 不特定空地	342 8	なし		なし	8
H23	31地区	調査	20110411	天間 1168-6 外 集合住宅建設	635 14	なし		なし	8
H23	32地区	調査	20110603	天間 1106-1 外 集合住宅建設	628 19	縄文	なし	土加群	8
H24	33地区	確認	20121129	天間 1050-1 外 集合住宅建設	896 12	なし		なし	9
H24	34地区	確認	20121205 ～20121206	天間 964-1 外 おまひ野球場 空地造成	2,138 72	なし		縄文土器	9
H25	35地区	確認	20130418	天間 1174-3 外 空地造成	1,885 38	なし		なし	9
H25	36地区	確認	20130509	天間 1263 外 空地造成	2,178 82	なし		なし	9
H25	37地区	確認	20131001 ～20131004	天間 1010-5 個人住宅建設	398 46	縄文	埴輪跡物跡・土坑	縄文土器・石器	9

調査年度	地区・区 (土地目録)	調査 種類	調査期間	所在地 調査の範囲	調査面積 (㎡) 調査面積 (㎡)	時代	遺構	遺物	文献
H25	38地区	確認	2013.10.29	天間 1317-1 外 片岡地区遺跡	565 9	なし	なし	なし	9
H25	39地区	確認	2014.01.17 ~2014.01.10	天間 1010-6 個人住宅埋蔵	353 53	縄文	土坑・ピット	縄文土器、石器	9
H26	40地区-1次	確認	2014.07.22 ~2014.07.28	天間 1001-1 外	3517 99	縄文	竪穴建物跡・ピット	縄文土器	本書
H26	40地区-2次	確認	2014.08.18 ~2014.08.21	天間 1001-1 外	3517 65	縄文	ピット	縄文土器	本書
H26	41地区	確認	2015.01.26	天間 615-1 外	567 9	なし	なし	なし	
H27	42地区	確認	2015.04.17	天間 600-1 外	1510 83	なし	なし	なし	
H27	40地区-3次	本 調査	2015.05.11 ~2015.07.17	天間 1001-1 外	892 646	縄文	竪穴建物跡・溝・土坑・ピット	土器・石器	本書

文献1 『天間沢遺跡第7次(予地区)発掘調査報告』(1979)

2 『天間沢遺跡1 遺構編』(1984)、『天間沢遺跡 遺物・考釋編』(1985)

3 『西富士遺跡(富士地区)・片岡丘陵部市の南道路出土遺跡群埋蔵文化財発掘調査報告』(天間地区)。(1981)

4 『平成14・20年度 富士市内遺跡発掘調査報告』(2010)

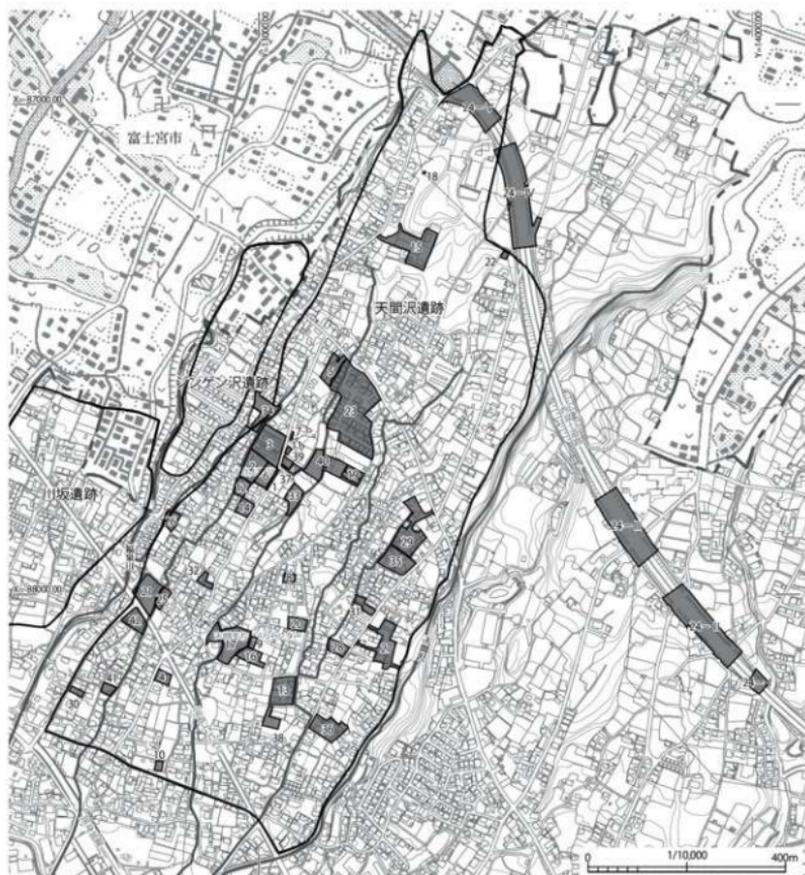
5 『平成17・18年度 富士市内遺跡発掘調査報告』(2006)

文献6 『平成15・19年度富士市内遺跡発掘調査報告』(2000)

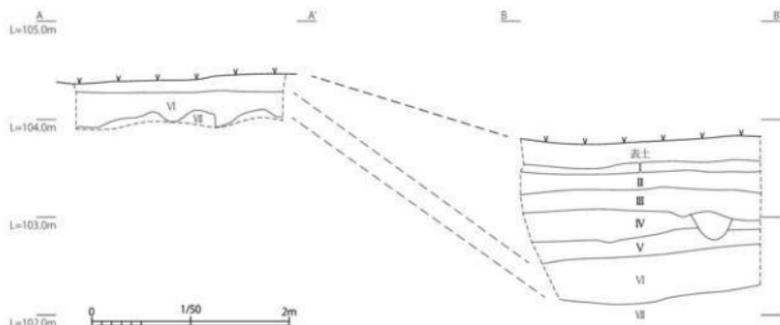
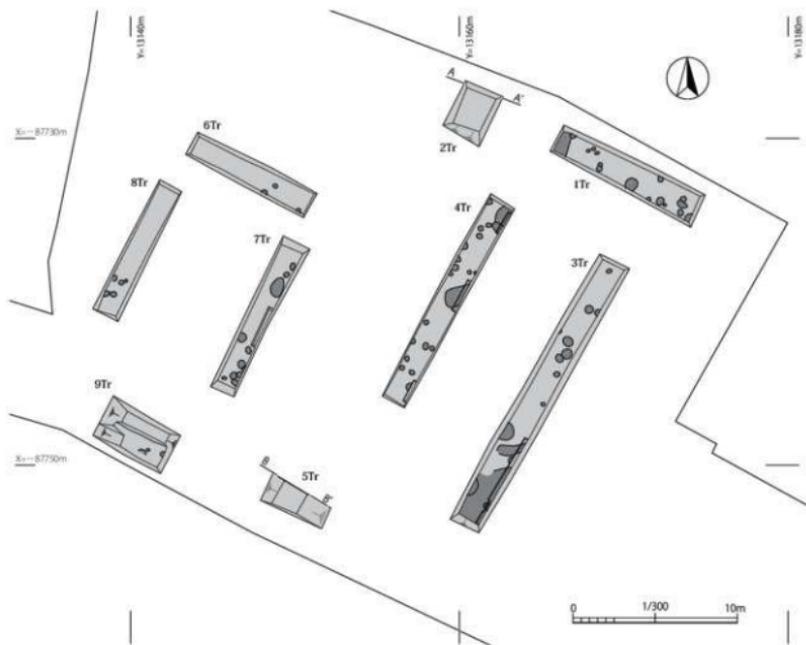
7 『平成21年度 富士市内遺跡発掘調査報告』(2011)

8 『富士市内遺跡発掘調査報告-平成22・23年度-』(2013)

9 『富士市内遺跡発掘調査報告-平成24・25年度-』(2015)



第10図 調査履歴図



- | | |
|--|------------|
| I 黒褐色 (10YR2/2) しまりこく強、粘性弱。径1~3mmの濃い赤褐色スコリアを多量含む。 | 大沢ラビリ層 |
| II 黒色 (10YR2/1) しまり強、粘性ややあり。径2~5mmの濃い赤褐色スコリアを中量含む。 | 栗色土層 (KU) |
| III 黒褐色 (10YR2/2) しまり強、粘性ややあり。径2~5mmの濃い赤褐色スコリアを少量含む。 | 富士黒土層 (FB) |
| IV 黒褐色 (10YR2/3) しまり強、粘性ややあり。径3~5mmの褐色スコリアを中量含む。 | 漸移層 (Zn) |
| V 褐色 (7.5YR4/4) しまり強、粘性あり。径1~3mmの褐色スコリアを中量含む。 | 休耕層 (YL) |
| VI 褐色 (10YR4/6) しまり強、粘性あり。径1~3mmの褐色スコリア・径5~10mmの小石を少量含む。 | 古富士泥流上層が |
| VII 褐色 (10YR4/6) しまりこく強、粘性ややあり。溶岩塊主体。 | |

第11図 基本土層図

第3章 調査成果

遺構

今回の調査では、竪穴建物跡1、溝3、自然流路1、土坑20、小穴（ピット）280を検出調査した。

竪穴建物跡

SB101

残存状況 調査区の南端中央にて検出。南側は確認調査5Trにより切られている。確認調査の段階では、建物跡の確認が得られなかったが本調査においてプランを検出した為、建物跡とした。

建物跡は円形を呈し、東西3.9m、南北は調査した範囲で2.4mを測る。検出面から床面までの深さは、25cmを測る。

検出時に、覆土上層から遺物が少量出土したものの、床面近くのローム混じりの土層からは遺物は出土しなかった。包含層が形成される時に、周辺から遺物が混入した結果と考えられる。

覆土 上・中・下層の3層に大別される。上層は黒色(7.5YR1.7/1)で赤色粒子を少量含む。中層は、極暗褐色(7.5YR2/3)でローム粒子を中量含む。下層は床面近くの土層で、暗褐色(7.5YR3/3)でロームをシミ状に含む上層である。

前述の通り遺物の多くは、上層からの出土である。

柱穴・ピット 床面において12基のピットを検出した。直径15～30cm程度を測る。12基のうち、直径30cm近くで、深さ30cm前後のPhi01・Phi03は柱穴になると考えられるが、他の柱穴は、明確ではない。

炉 検出されなかった。確認調査時に南側でも検出されなかった為、屋外炉であった可能性が高い。

遺物 8点の遺物を図化した。

1は口縁部の破片で、把手、渦巻き状の突起を持つ。また把手の隆帯上には交互刺突をもつ。井戸尻式。2も井戸尻式で、隆帯上に刻みをもち、さらに交互刺突がある。また縦位に粗い爪形文を施す。3は井戸尻式から加曽利E式と考えられ、RLの縄文が施される。4も井戸尻式で、やや小型の土器である。鳥とも考えられる突起を4単位もつ。5は、北浦C～北屋敷式と考えられ三角押文が施される。6は新道式とやや古い型式の破片で

ある。隆帯の裾にせり上がるように幅広い連続爪形文で区画される。

7は敲石の破片と考えられ、敲打痕が確認される。8は打製石斧で、刃部、着柄部ともに欠損する。自然面を残し、左右の両極から打撃を加え成形している。

時期 出土遺物から縄文時代中期井戸尻式期と考えられる。

溝

SD101

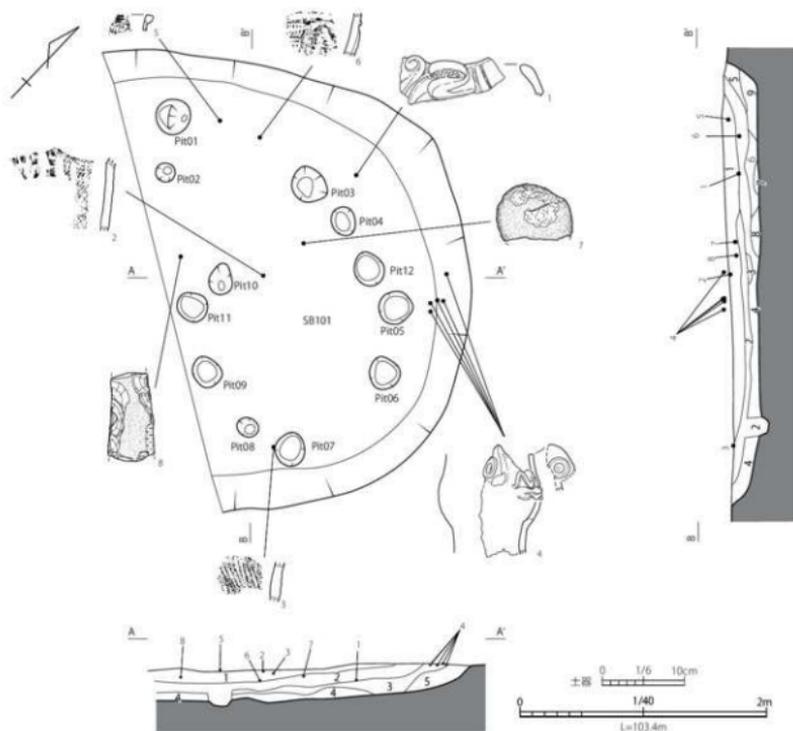
残存状況 調査区北端中央において検出。掘り込みは調査区外へと延びる。南北軸からやや西に振れている。幅70cm、深さ45cm程度を測るが、上面は削平を受けており、本来の規模とは大きく異なる。東端の立ち上がりは、ゆるやかなものの、西側は、奥行き40cm程度ハンクしている。これは雨水により、軟弱な地層が削られた為形成されたものと考えられる。

遺物は多く出土している。特に出土位置にまともはなく、遺構全体から出土している。14の遺物の接合関係が特異で16点の破片が接合しているが、平面的には1.5mの接合距離があり、前述のハンク部分からの出土も認められる。

遺物 26点の遺物を図化した。

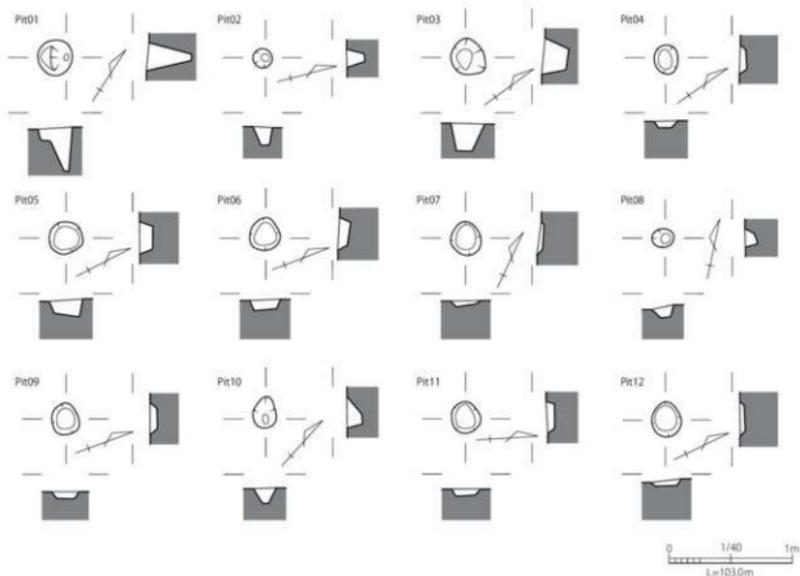
9～11は五領ヶ台式である。9は特に五領ヶ台Ⅱ式と考えられ、薄手の口縁部片で折り返しをもつ。折り返しの下に2条の平行沈線をもつ。10も口縁部片である。口唇部を肥厚させ、縦方向の細線文を施す。11には縦位の浮線文が認められる。12は時期不明の破片で、隆帯で区画しており表面に朱塗りが確認される。13・14は北屋敷式である。13は薄手で連続した三角刺突を施文する。14は無文で、全体的に薄いつくりである。破片の下端に横位の隆帯をもつ。胎土には、雲母を多く含む。15は柵沢式～新道式の破片である。渦巻き、直線の棒状工具による連続刺突が施文される。16は、新道式。重三角区画を隆帯でつくりだし、裾に細かく浅い爪形刺突を二重に施文する。雲母が多い。17は藤内式で、隆帯上に細かく浅い矢羽根状の刺突をもつ。

18～28は井戸尻式の破片である。18は口縁部を水平に肥厚させ、上面は、爪形の刻みと太く粗い交互刺

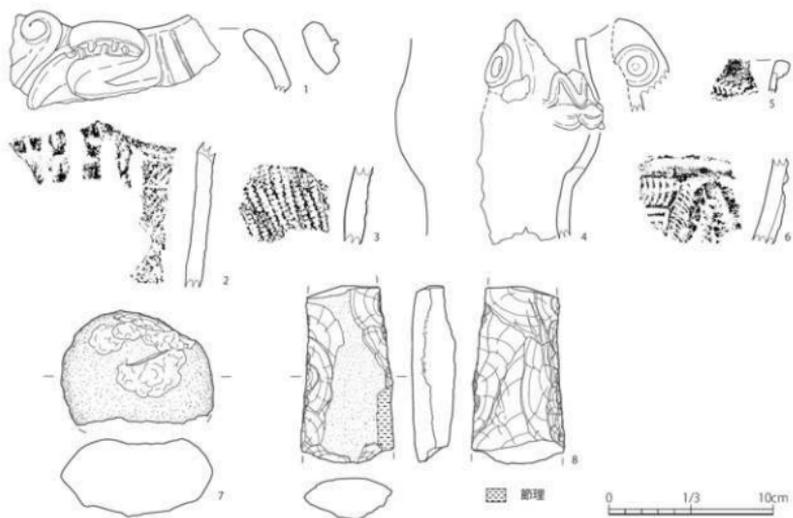


A-A'						
1 黒	(7.5YR1.7/1)	しまりやや有	粘性やや有	φ2mm赤色粒子少量	ローム粒子中量	*B-B'1と対応
2 黒	(7.5YR1.7/1)	しまりやや有	粘性有	φ2mm赤色粒子中量	ローム土をシミ状に含む	*B-B'2と対応
3 緑褐色	(7.5YR2/3)	しまりやや有	粘性やや有	φ2mm赤色粒子中量	ローム土をシミ状に含む	*B-B'3と対応
4 暗褐	(7.5YR3/3)	しまりやや有	粘性有	黒色土をシミ状に含む		*B-B'4と対応
5 暗褐	(7.5YR3/4)	しまりやや有	粘性有	φ2mm赤色粒子中量	黒色土をシミ状に含む	
B-B'						
1 黒	(7.5YR1.7/1)	しまりやや有	粘性やや有	φ2mm赤色粒子少量	ローム粒子中量	*A-A'1と対応
2 黒	(7.5YR1.7/1)	しまりやや有	粘性有	φ2mm赤色粒子中量	ローム粒子中量	
3 緑褐色	(7.5YR2/3)	しまりやや有	粘性やや有	φ2mm赤色粒子中量	ローム粒子中量	*A-A'2と対応
4 暗褐	(7.5YR3/3)	しまりやや有	粘性有	黒色土をシミ状に含む		*A-A'3と対応
5 黒	(7.5YR2/2)	しまりやや有	粘性有	φ2mm赤色粒子少量		*A-A'4と対応
6 暗褐色	(7.5YR2/3)	しまり有	粘性有	ロームブロックを中量含む		
7 暗褐	(7.5YR3/4)	しまり有	粘性有	ロームブロックを多量含む		
8 暗褐	(7.5YR3/4)	しまり有	粘性有	ロームブロックを多量含む		
9 暗褐色	(7.5YR2/3)	しまりやや有	粘性やや有	ローム土をシミ状に含む		
Pit01	黒褐	(7.5YR2/2)	しまりやや有	粘性やや有	φ2mm赤色粒子少量	ロームブロック中量
Pit02	黒	(7.5YR1.7/1)	しまりやや有	粘性やや有	φ2mm赤色粒子少量	ロームブロック少量
Pit03	黒褐	(7.5YR3/2)	しまりやや有	粘性やや有	ローム粒子中量	ローム主体に黒が混ざる
Pit04	暗褐	(7.5YR3/3)	しまりやや有	粘性やや有	赤色粒子少量	ローム主体に黒がシミ状に入る
Pit05	黒褐	(7.5YR3/2)	しまりやや有	粘性やや有	赤色粒子中量	ローム主体に黒がシミ状に入る
Pit06	暗褐	(7.5YR3/4)	しまりやや有	粘性やや有	赤色粒子中量	ローム主体に黒がシミ状に入る
Pit07	暗褐	(7.5YR3/4)	しまりやや有	粘性やや有	ローム主体	
Pit08	黒	(7.5YR1.7/1)	しまりやや有	粘性有	φ2mm赤色粒子中量	ローム粒子中量
Pit09	暗	(7.5YR4/4)	しまりやや有	粘性やや有	赤色粒子中量	ローム主体に黒がシミ状に入る
Pit10	黒	(7.5YR1.7/1)	しまりやや有	粘性有	ローム粒子中量	ローム粒子中量
Pit11	暗褐	(7.5YR3/4)	しまりやや有	粘性やや有	赤色粒子中量	ローム主体に黒がシミ状に入る
Pit12	暗	(7.5YR4/4)	しまりやや有	粘性やや有	赤色粒子中量	ローム主体に黒がシミ状に入る

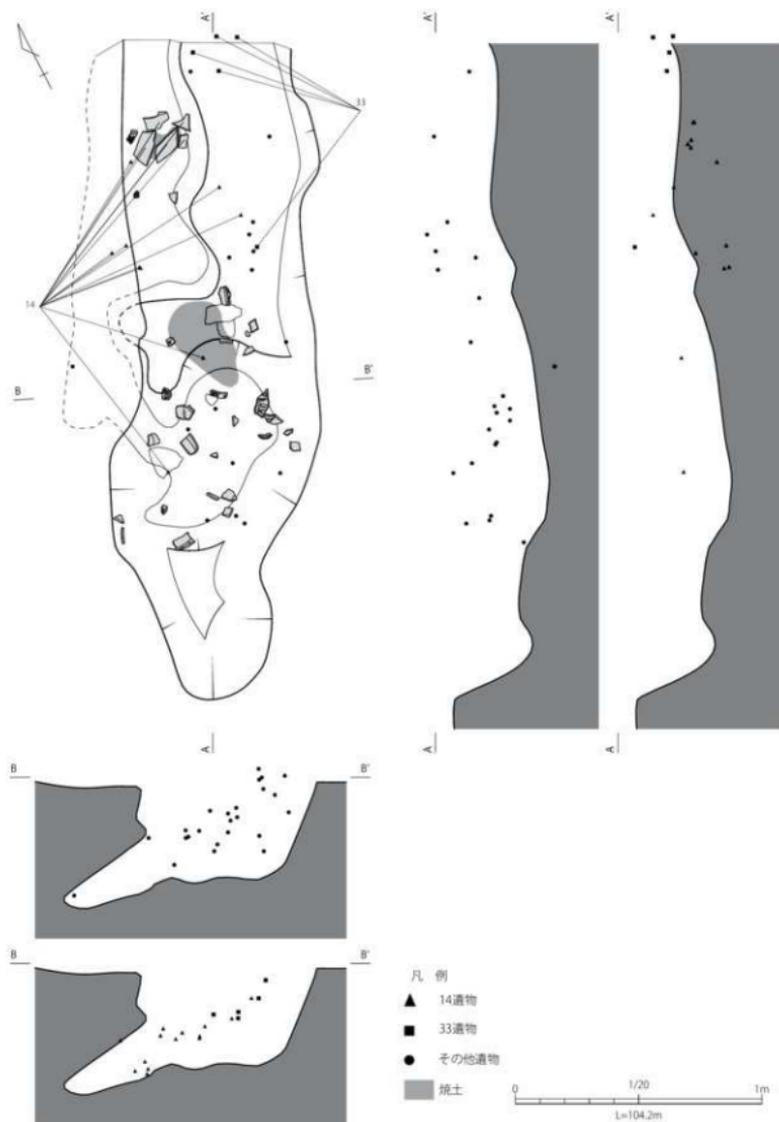
第12図 SB101



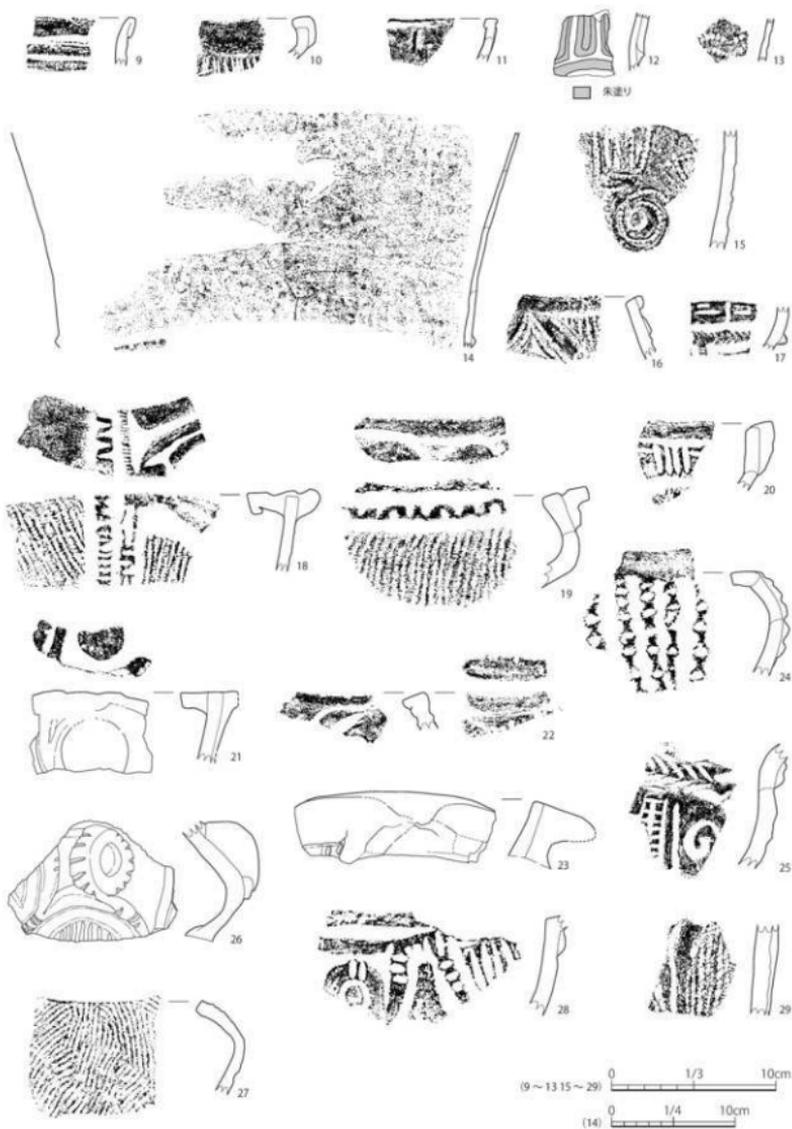
第13図 SB101 ピット



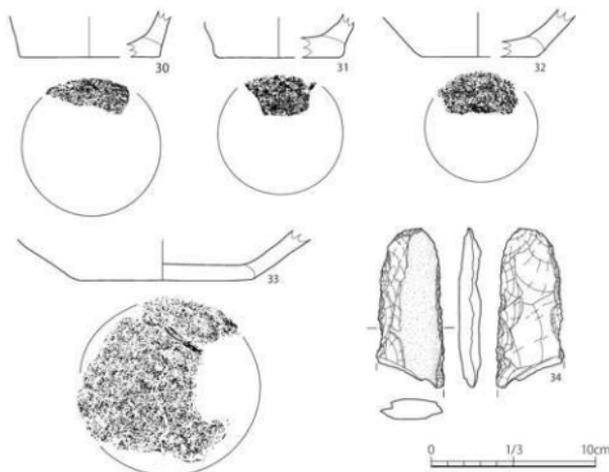
第14図 SB101 出土遺物



第15図 SD101



第16図 SD101 出土遺物①



第17図 SD101 出土遺物②

突をもつ。その隆帯による区画は外面にも延びている。19も口唇部を肥厚させ、端に面をつくりだしている。肥厚させた下には、横位の交互刺突を施す。20は横位の平行沈線に施した後に、縦位のクシ状沈線を施している。21も18・19同様、口唇部を肥厚させている。上面は19同様、沈線・低隆帯で円形のモチーフをつくりだす。23は口縁部の貼り付け把手部分である。24は口唇部内側を平らに肥厚させ、側面には垂下する太い隆帯に楕円形の粗い刻みをもつ。25は横位の矢羽根状の連続刻みをもち、沈線で渦巻きや方眼状の文様を施文する。26は渦巻き状の突起をもち、側面に刻みをもつ。27は内湾した口縁部でLR縄文が施文される。28は、隆帯に楕円形の刻みを施し、区画内は沈線で円形や直線の文様を施文する。

29は加曾利E2～3式である。低い隆帯をもち、燃糸文による施文がみられる。30～33は底部の破片で、膝坂式の範疇と思われる。

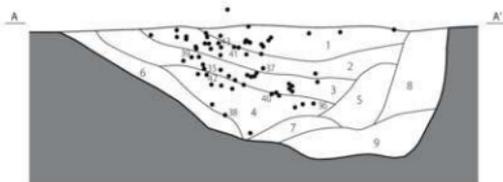
34は自然面を残す打製石斧で、刃部が欠損する。

SD102

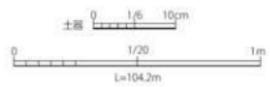
残存状況 調査区北端中央においてSD101の西側で軸をそろえる様に検出された。北側は調査区外へと延びる。幅1.57m、深さ51cmを測るがSD101同様、上面は削平を受けていると考えられる。東側の立ち上がりは比較的急なものの、西側はなだらかである。

底面および立ち上がり付近は、ローム土主体の覆土だが、中央付近は黒色から黒褐色の土層で、その中からほとんどの遺物が出土した。

遺物 9点を図化した。35は銘沢～新道式で、低い隆帯に二重の細かい連続刺突をもつ。36は藤内式の把手部分である。37～41、43は井戸尻式である。37の外面にはRLの縄文が施される。38の口縁部は外方にむかって肥厚させており、外面には重三角区画をもつ。39は内湾する口縁部で無文。40は垂下する沈線と隆帯に沿って、間隔の広い刻みをもつ。41の上端には隆帯に沿って沈線が認められ、縦位の燃糸文が施文される。42は称名寺式で、細い棒状工具により曲線のモチーフが施文される。43は土製円盤である。



1	黒	(7.5YR1.7/1)	しまり有	粘性無	φ2m赤色粘土少量
2	黒	(7.5YR2/1)	しまり有	粘性無	φ2m赤色粘土中量
3	黒褐色	(7.5YR2/2)	しまり有	粘性無	ローム土をシズミ状に含む
4	黒褐色	(7.5YR2/3)	しまり有	粘性無	φ2m赤色粘土中量
5	粘褐色	(7.5YR2/3)	しまり有	粘性やや有	φ2m赤色粘土中量
6	黒褐色	(7.5YR3/2)	しまり有	粘性やや有	ロームブロック混入
7	粘褐色	(7.5YR3/4)	しまり有	粘性やや有	ローム土に若干黒色土入る
8	粘	(7.5YR4/3)	しまり有	粘性やや有	ローム土に若干黒色土入る
9	粘	(7.5YR4/4)	しまり有	粘性やや有	ローム土に若干黒色土入る



第18図 SD102

SD103

残存状況 調査区の南東側において南北方向に軸をむけて検出した。軸は南からやや西に振れている。長さ4.5m、幅1.1m、深さは最深で68cmを測る。覆土は、黒褐色から暗褐色で、底面と立ち上がり付近のみロームが主体となる。遺物が1点も出土せず、性格は明確ではないが、自然に出来た流路の可能性もある。

自然流路

NR101

残存状況 調査区南東側において検出した。今回の本調査区では、西側の谷にむかって急激に落ちる傾斜とともに、現在は埋没してしまっている東側への傾斜が存在することが明らかとなったが、その谷が埋まっていく段階で遺物が入る包含層を形成しており、谷の際を検出した為、NR101とした。遺物は4点のみの出土である。谷の際には、南から約45°西に振れている。

遺物 1点を図化した。44は井戸尻式の破片である。左右を区画する隆帯に楕円形の粗い刻みを有し、さらに隆帯に沿って沈線を施す。

土坑・ピット

土坑20基、ピット280基を検出した。

検出したピットの内、柱穴になると思われるものも存在したが、建物の柱穴を構成する組み合わせが明確でなく、建物跡を明らかにする事が出来なかった。

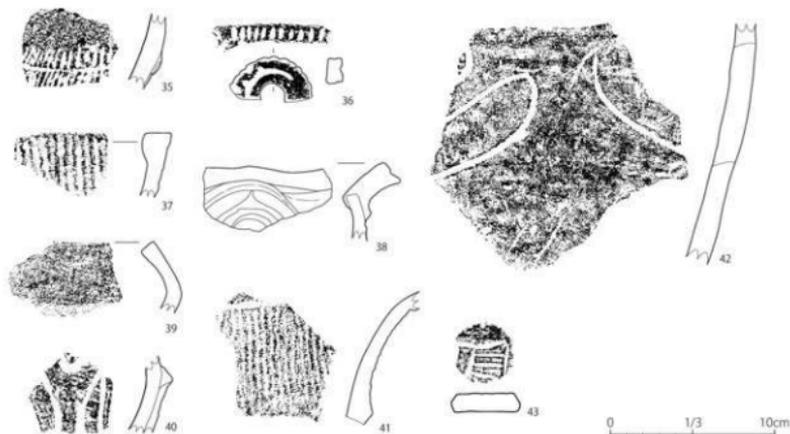
遺構規模は一覧表に譲る事とするが、今回の調査では覆土を以下の通り、3パターンに区分した。

- A 黒 (7.5YR1.7/1)
しまり有、粘性無、赤色粒子中量
- B 黒褐 (7.5YR2/2)
しまりやや有、粘性やや有、赤色粒子少量
- C 暗褐 (7.5YR3/3)
しまり有、粘性やや有、ロームに黒混じり

今後、建物跡の存在を再検討する際には、同じ土層の存在が前提となると思われる。以下、特筆すべき土坑のみ記述する。

SK157

調査区北端中央においてSD102に切られる様に検出された。2.23m×1.56mの隅丸方形をなすと考えられ、深さは64cmを測る。遺物が1点出土している。遺物(45)は井戸尻式の破片で、低い隆帯で区画され、粗い刻みをもつ。また隆帯に沿って沈線をもつ。



第19図 SD102 出土遺物

SK302

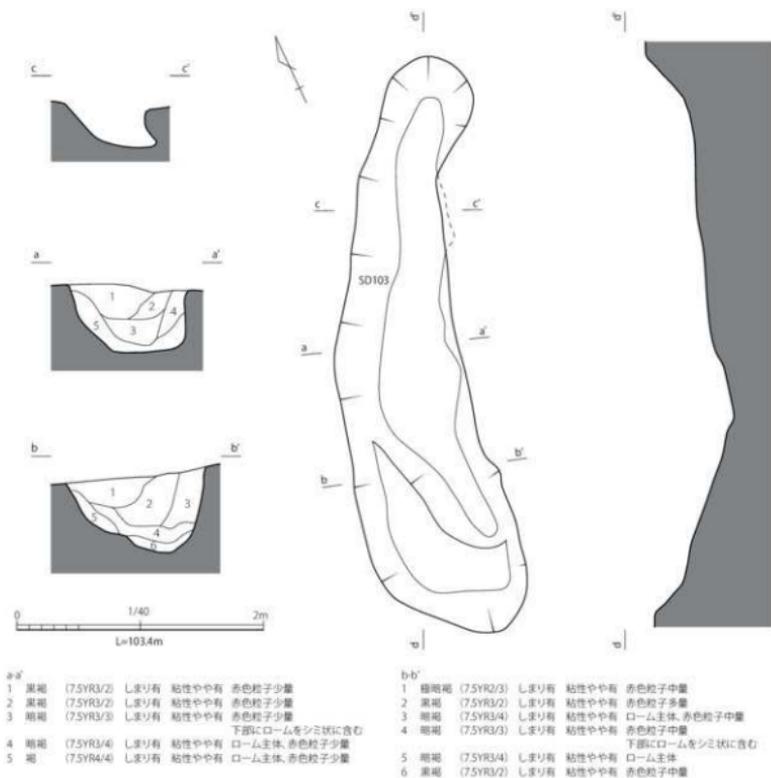
調査区南端中央において検出した。1.05m×0.88mの楕円形を呈し、断面は浅い箱形で深さ27cmを測る。遺構の南側より曾利式の比較的大きな破片が、底面よりはかなり浮いた状態で出土した。

遺物(46)は、曾利V式の胴部から口縁部にかけての破片である。口縁部は4単位の波状を呈する。ヘラ状工具による曲線により区画され、逆ハの字で充填している。

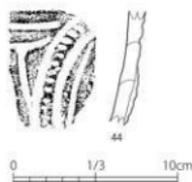
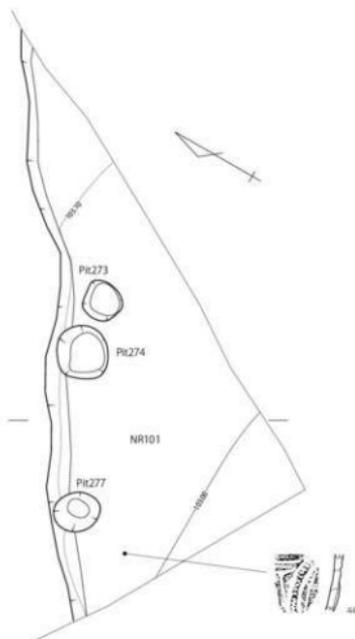
包含層出土遺物

47は、色調が白っぽく東海西部系のように観察される。繊維痕が残る竹管工具で縦位に波状を施文する。48は井戸尻式の突起部分で、49・50も井戸尻式である。49は、隆帯と隆帯に沿った沈線で区画し、隆帯上に爪形の刻みをもつ。50は土製円盤。51は曾利V式、52・53は加曾利E4式の口縁部片である。

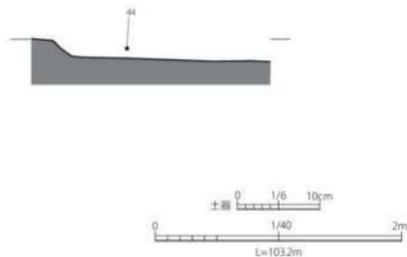
54は打製石斧、55は敲石で、前者が砂岩、後者が凝灰岩製である。



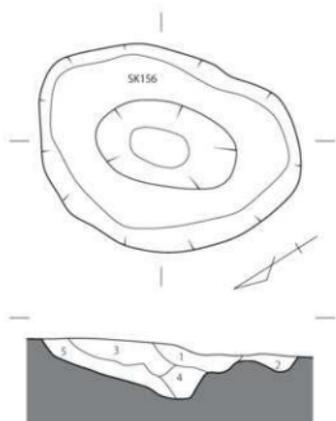
第20図 SD103



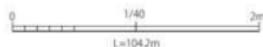
第22図 NR101 出土遺物



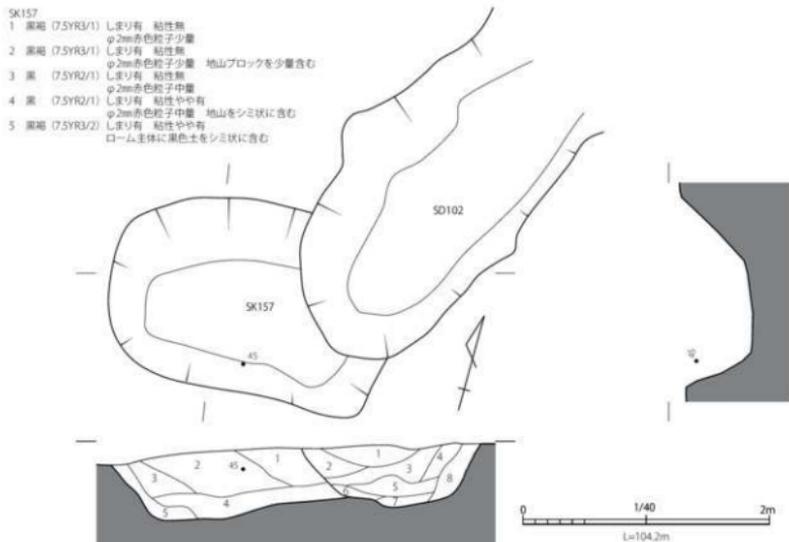
第21図 NR101



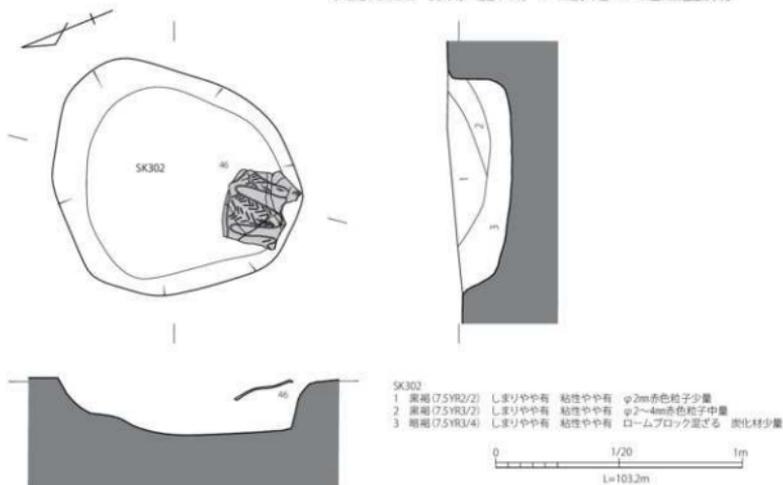
- SK156
南北セウ築壁
- 1 築期(7.SYR3/1) しまじやや有 粘性やや有
ローム粒子中量
 - 2 築期(7.SYR3/4) しまじやや有 粘性やや有
φ2mm赤色粒子中量、ロームをシミ状に含む
 - 3 築期(7.SYR3/1) しまじやや有 粘性やや有
φ2mm赤色粒子中量
 - 4 築期(7.SYR3/4) しまじやや有 粘性やや有
ロームブロック主体
 - 5 築期(7.SYR3/4) しまじやや有 粘性やや有
ロームブロックと黒色ブロックの混ざり



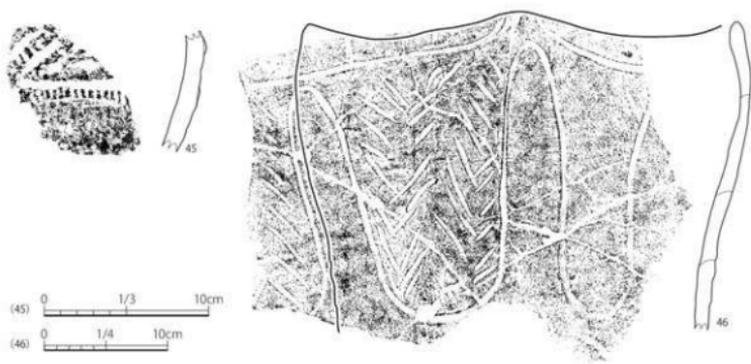
第23図 SK156



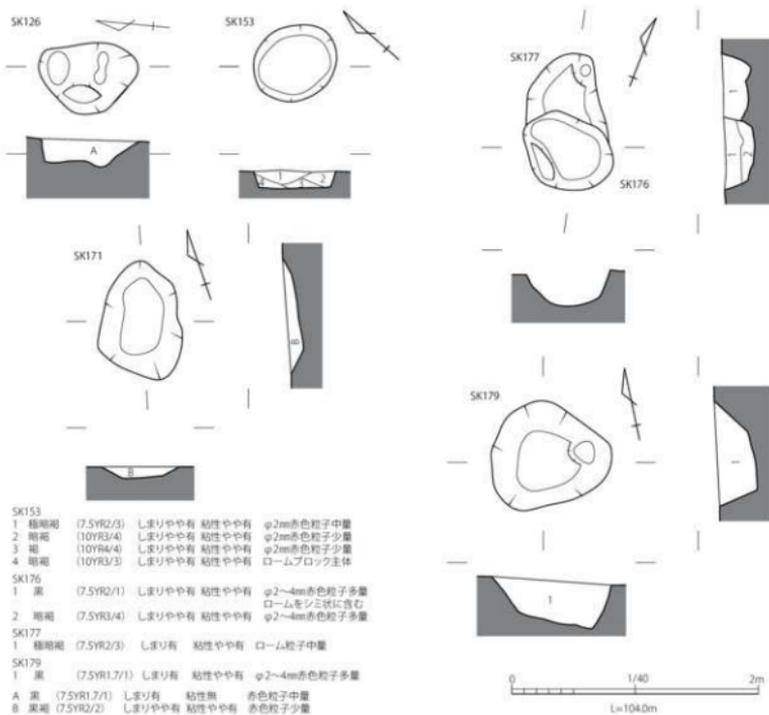
- SD102
- 1 黒層 (7.5YR3/1) しまり有 粘性無 φ2mm赤色粒子少量
 - 2 黒層 (7.5YR3/1) しまり有 粘性無 φ2mm赤色粒子極微量
 - 3 黒層 (7.5YR2/2) しまり有 粘性無 φ2mm赤色粒子中量
 - 4 黒層 (7.5YR3/4) しまり有 粘性やや有 ローム粒子多量
 - 5 黒層 (7.5YR3/2) しまり有 粘性やや有 ローム粒子多量
 - 6 黒層 (7.5YR3/2) しまり有 粘性無 ローム粒子中量
 - 7 黒層 (7.5YR3/4) しまり有 粘性やや有 ローム粒子中量 極多量のローム土をシミ状に含む
 - 8 黒層 (7.5YR3/3) しまり有 粘性やや有 ローム粒子中量 ローム土に黒色土が入る



第24図 SK157・302

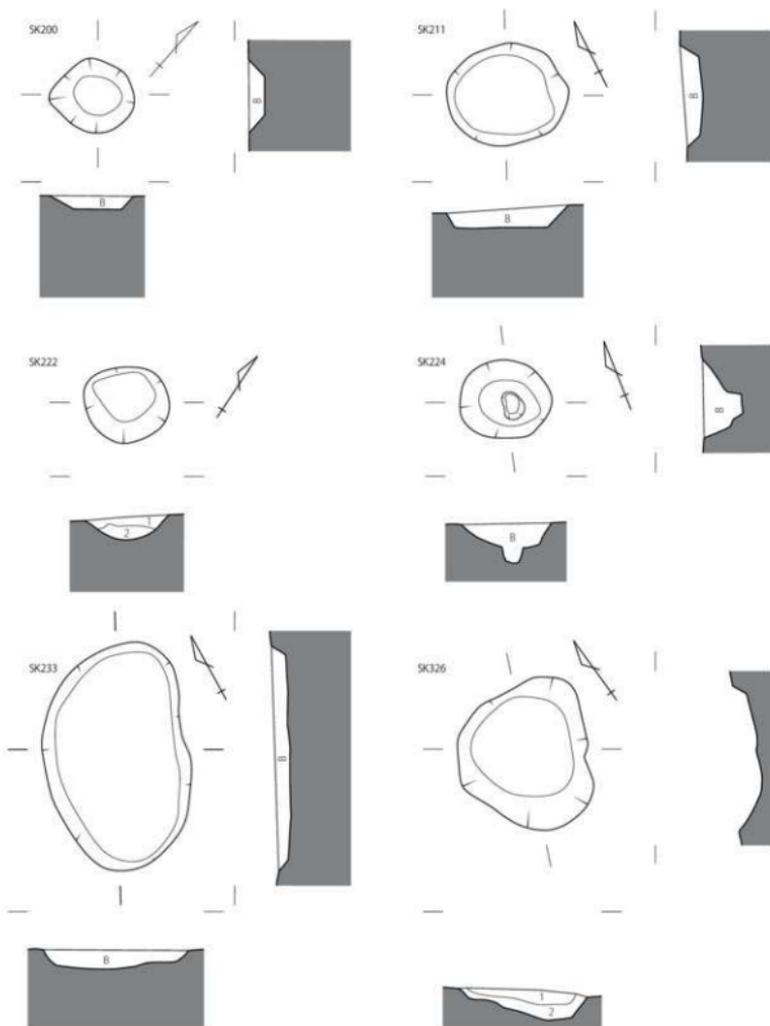


第25図 SK157・302 出土遺物



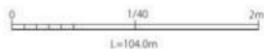
- SK126
 1 輪形陶 (7.5YR2/3) しまじりやや有 粘性やや有 φ2mm赤色粒子中量
 2 輪形 (10YR3/4) しまじりやや有 粘性やや有 φ2mm赤色粒子少量
 3 輪形 (10YR4/4) しまじりやや有 粘性やや有 φ2mm赤色粒子少量
 4 輪形 (10YR3/3) しまじりやや有 粘性やや有 ロームブロック主体
- SK176
 1 黒 (7.5YR2/1) しまじりやや有 粘性やや有 φ2~4mm赤色粒子多量
 2 輪形 (7.5YR3/4) しまじりやや有 粘性やや有 ロームをシミ状に含む φ2~4mm赤色粒子多量
- SK177
 1 輪形陶 (7.5YR2/3) しまじり有 粘性やや有 ローム粒子中量
- SK179
 1 黒 (7.5YR1.7/1) しまじり有 粘性やや有 φ2~4mm赤色粒子多量
- A 黒 (7.5YR1.7/1) しまじり有 粘性無 赤色粒子中量
 B 黒陶 (7.5YR2/2) しまじりやや有 粘性やや有 赤色粒子少量

第26図 SK126・153・171・176・177・179

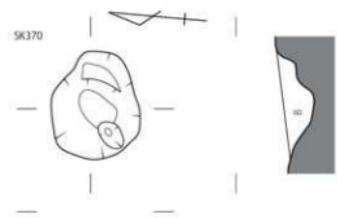
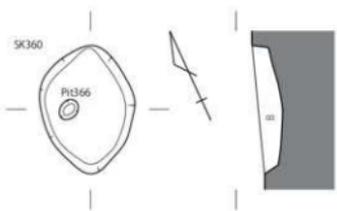
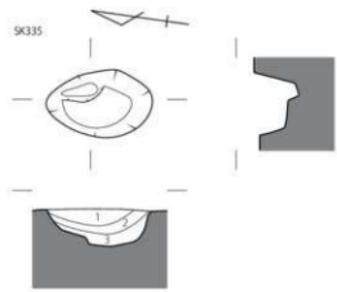
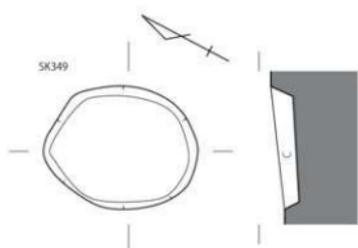
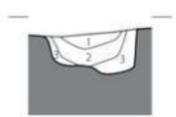
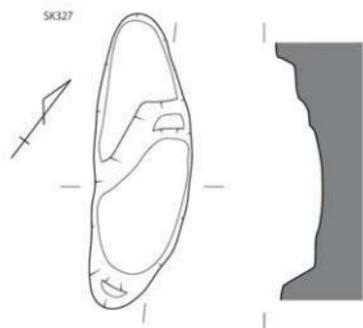


- SK222
 1 裏層 (7.5YR2/2) しまりやや有 粘性やや有 φ2m赤色粒子中量
 2 明層 (7.5YR3/4) しまりやや有 粘性有 ローム主体に黒色土をシミ状に含む

- SK326
 1 裏層 (7.5YR3/1) しまりやや有 粘性やや有 φ2m赤色粒子少量
 2 裏層 (7.5YR3/1) しまりやや有 粘性やや有 ローム粒子多量
 B 裏層 (7.5YR2/2) しまりやや有 粘性やや有 赤色粒子少量



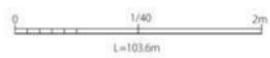
第27図 SK200・211・222・224・233・326



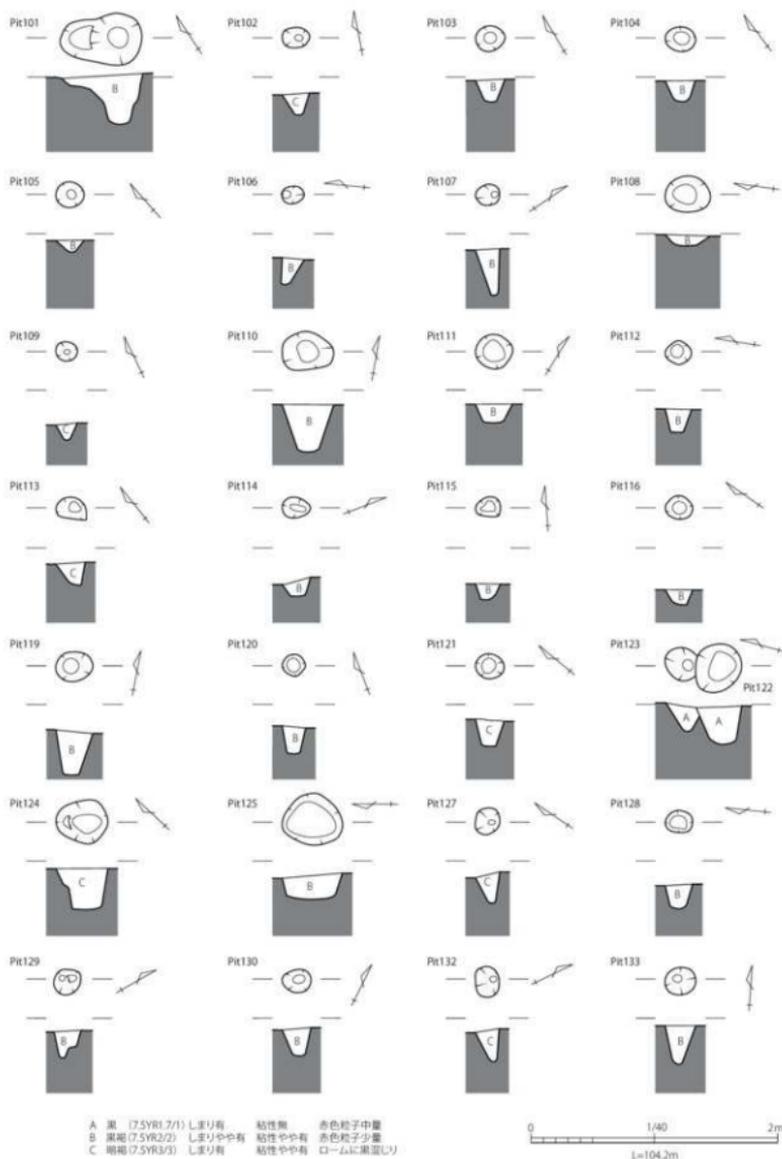
- SK327
 1 黒釉 (7.5YR3/1) しまり有 粘性無 φ2mm赤色粒子少量
 2 黒釉 (7.5YR3/1) しまり有 粘性やや有 φ2mm赤色粒子中量
 3 黒釉 (7.5YR3/2) しまり有 粘性やや有 ローム土をシミ状に含む

- SK335
 1 黒釉 (7.5YR2/2) しまりやや有 粘性無 φ2mm赤色粒子中量
 2 黒釉 (7.5YR2/2) しまりやや有 粘性やや有 ローム粒子少量
 3 黒釉 (7.5YR2/2) しまりやや有 粘性やや有 ロームブロック中量

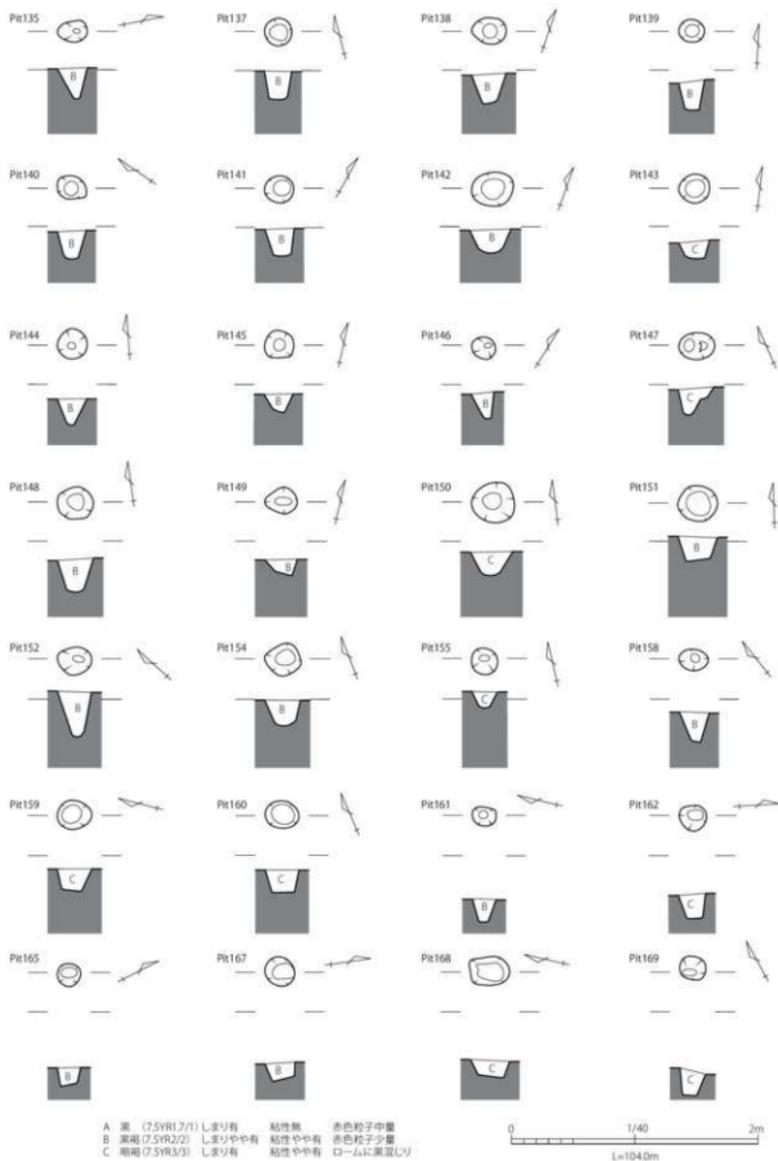
- A 黒 (7.5YR1.2/1) しまり有 粘性無 赤色粒子中量
 B 黒釉 (7.5YR2/2) しまりやや有 粘性やや有 赤色粒子少量
 C 黒釉 (7.5YR3/3) しまり有 粘性やや有 ロームに黒混じり



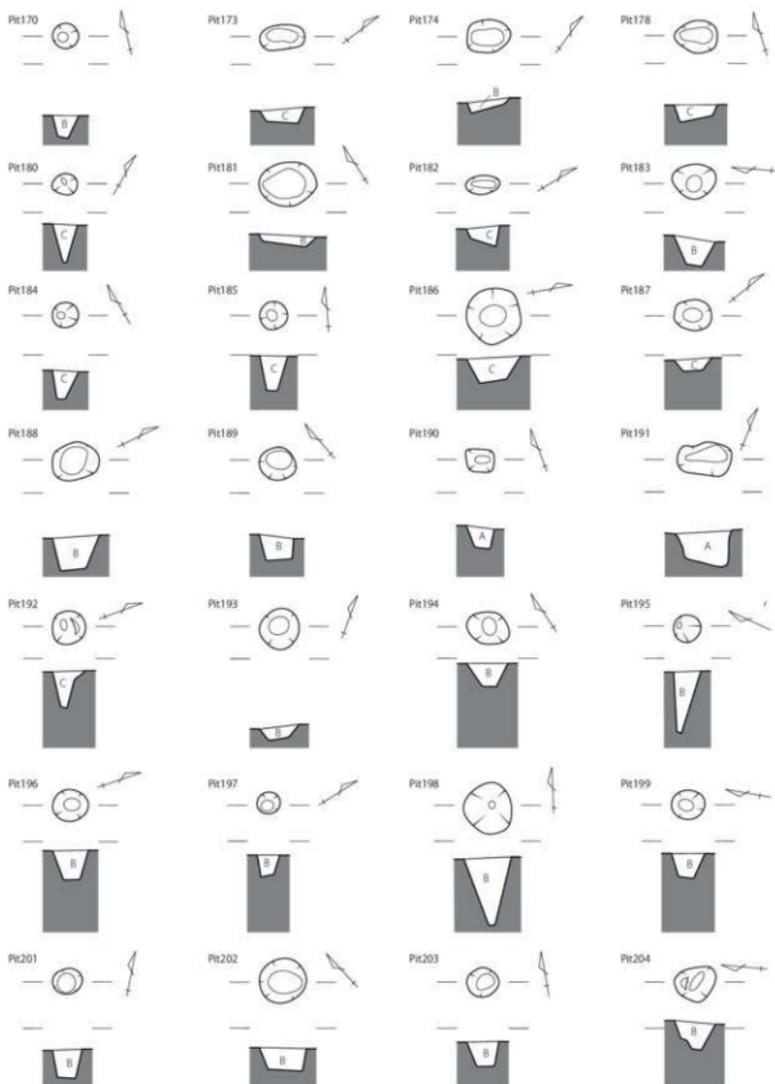
第28図 SK327・335・349・366・370



第29図 Pit101~116・119~125・127~130・132・133



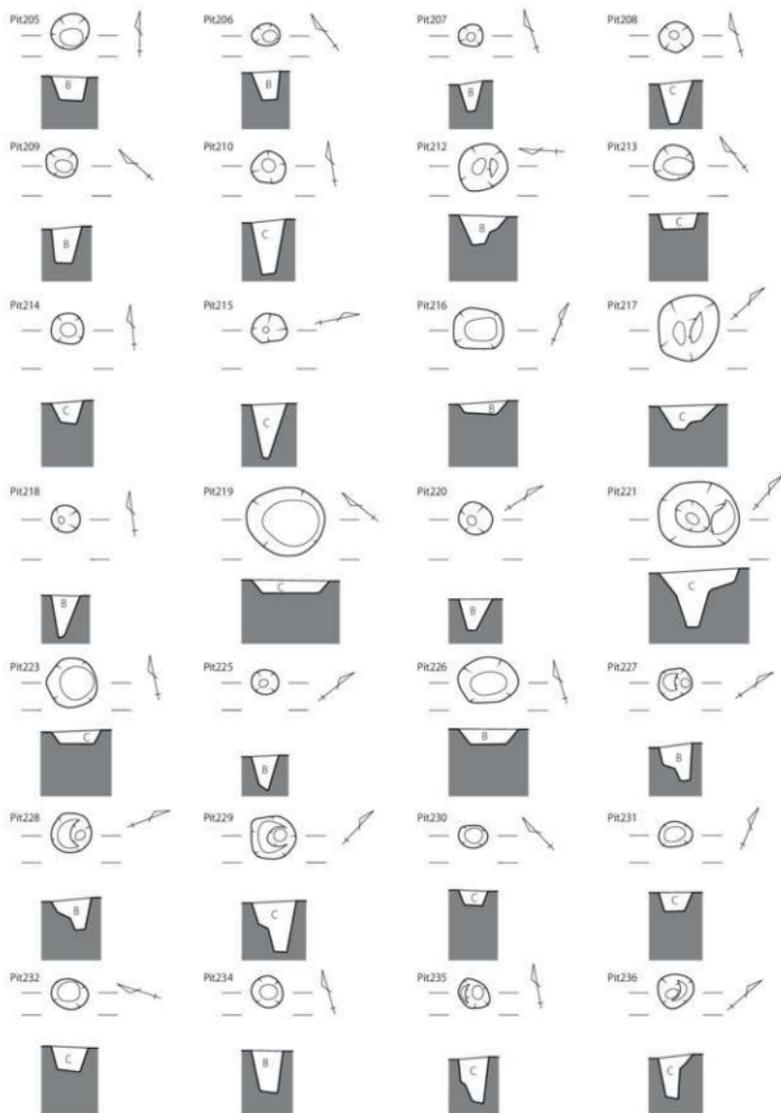
第30図 Pt135・137~152・154・155・158~162・165・167~169



A 渠 (7.5YR1.2/1) しまり有 粘性無 赤色粒子中量
 B 黒堀 (7.5YR2/2) しまりやや有 粘性やや有 赤色粒子少量
 C 堀堀 (7.5YR3/3) しまり有 粘性やや有 ロームに黒変し

0 1/40 2m
 L=104.0m

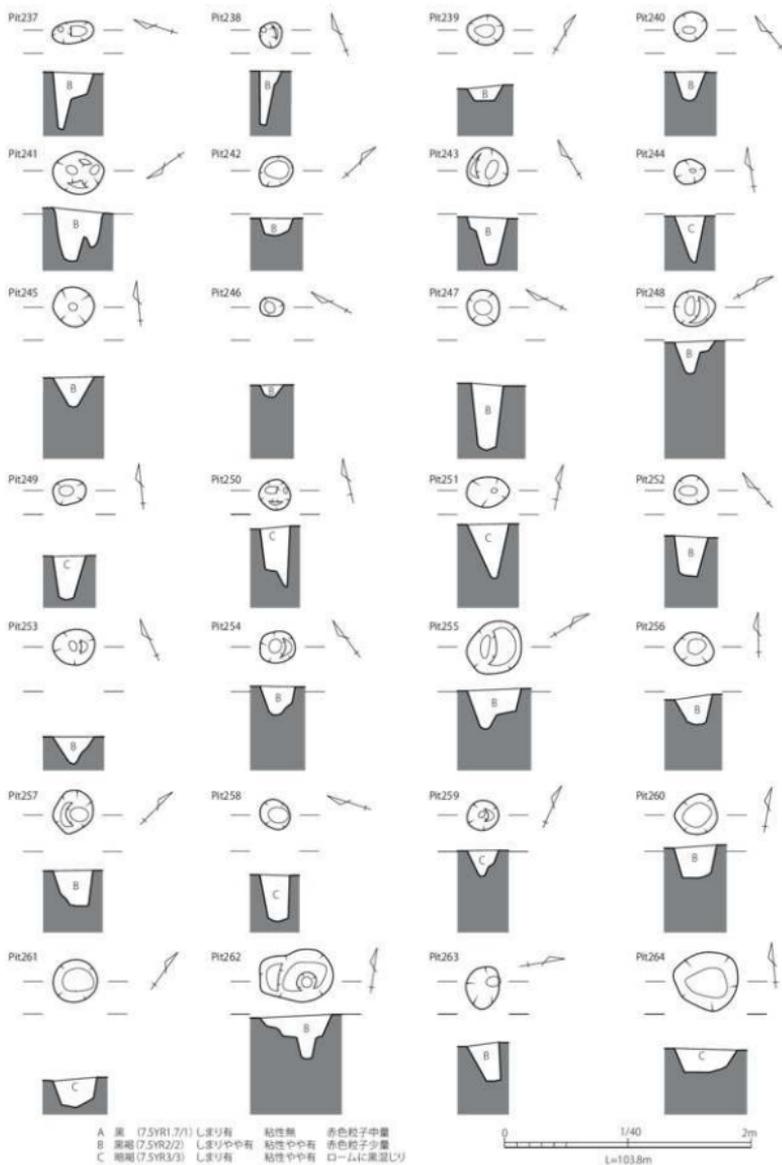
第31図 Pit170・173・174・178・180~199・201~204



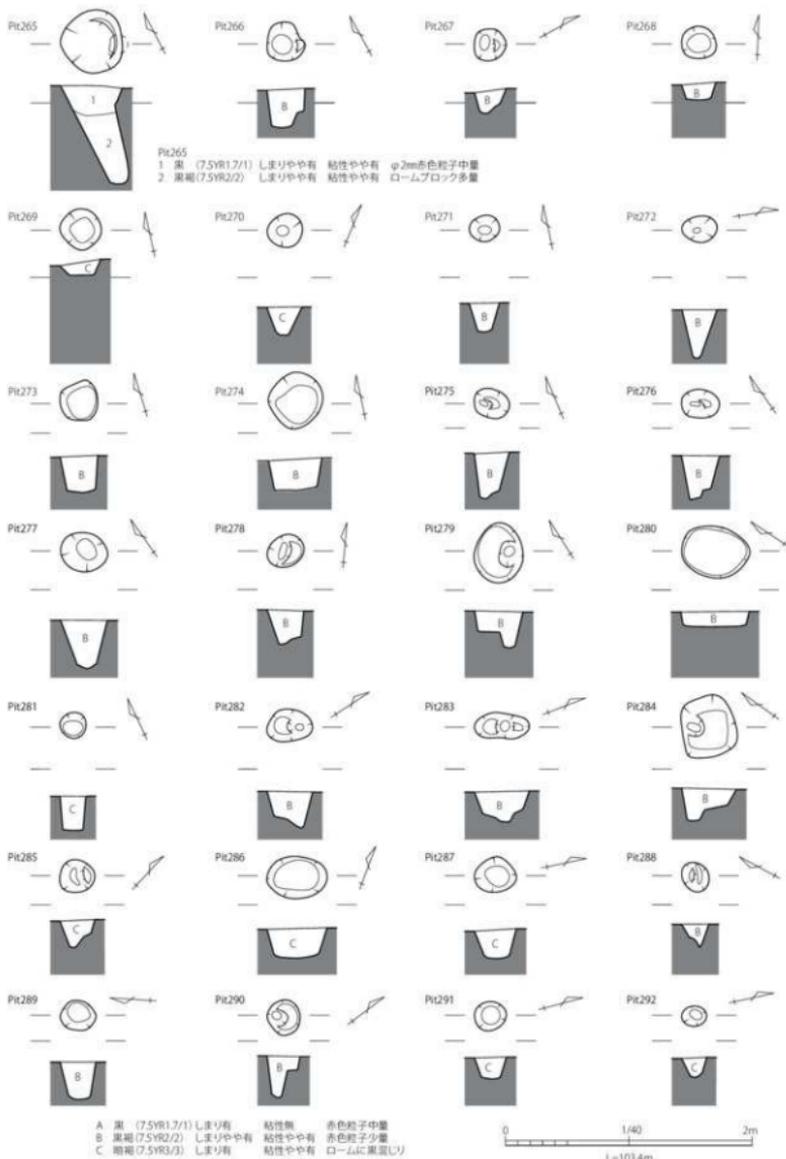
A 黒 (7.5YR1.7/1) しまり有 粘性無 赤色粒子中量
 B 黒相 (7.5YR2/2) しまり中や有 粘性中や有 赤色粒子少量
 C 暗相 (7.5YR3/3) しまり有 粘性中や有 ロームに黒量じり

0 1/40 2m
 L=104.0m

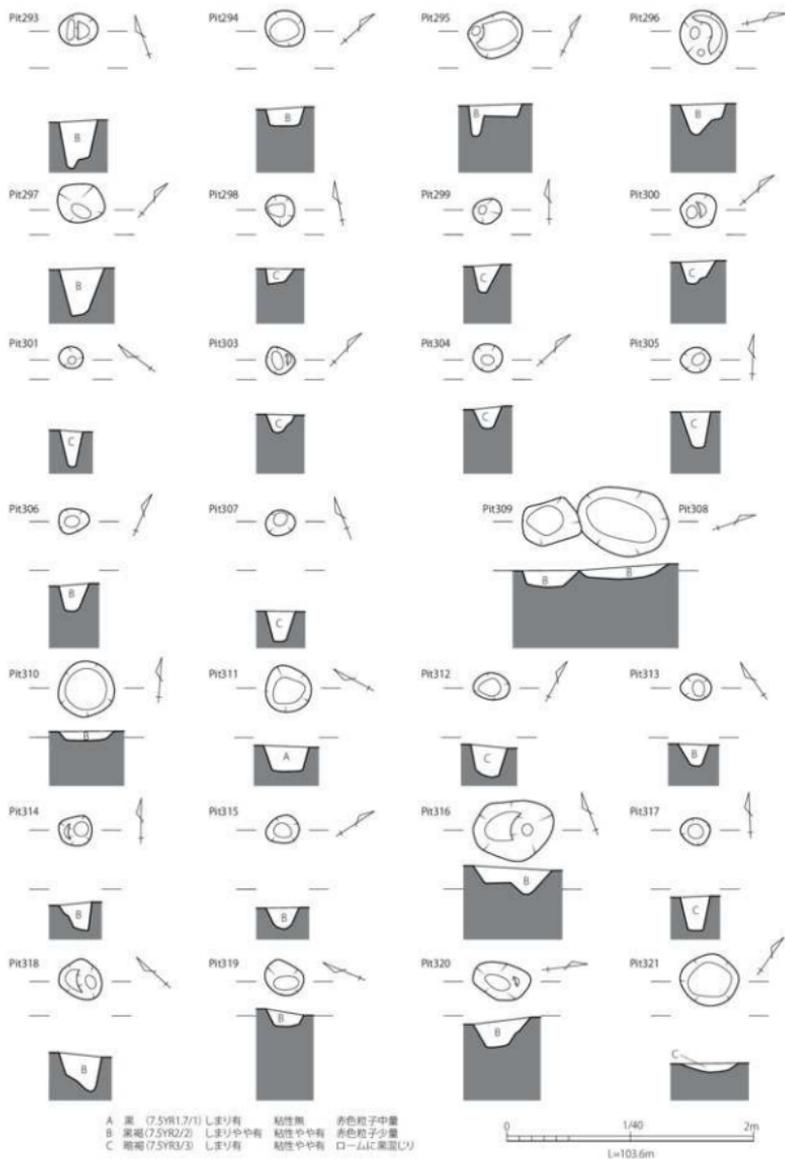
第32図 Pit 205~210・212~221・223・225~232・234~236



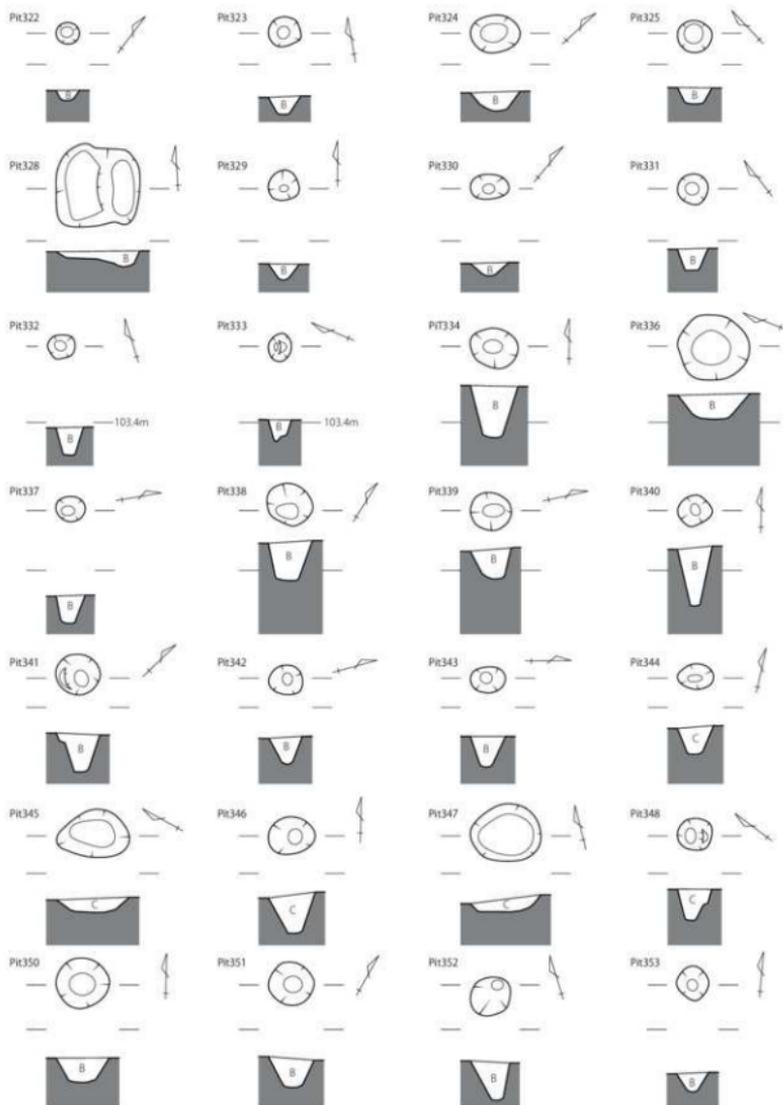
第33図 Pit 237~264



第34図 Pit 265~292



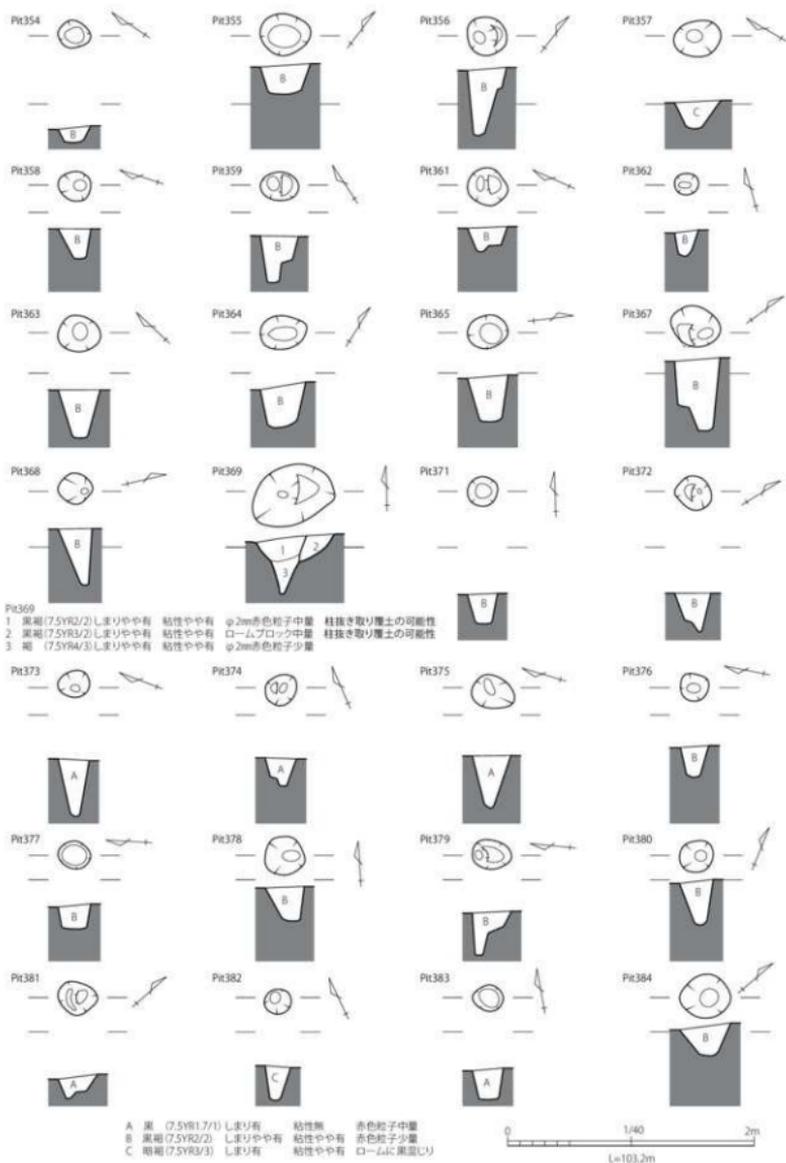
第35図 Pit293~301・303~321



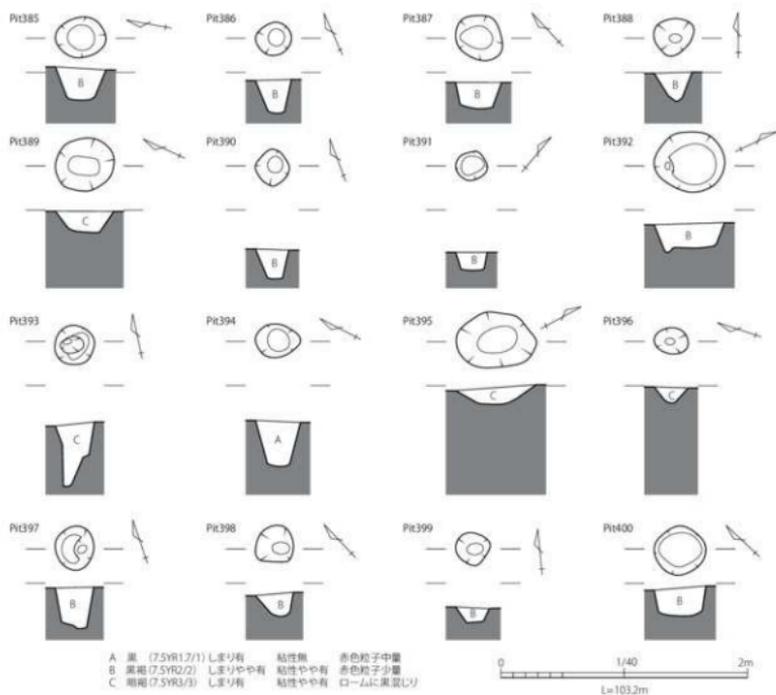
A 渠 (7.5VR17/1) Lまり有 粘性無 赤色粒子中量
 B 渠端 (7.5VR2/2) Lまりや中 粘性や中 赤色粒子少量
 C 渠端 (7.5VR3/3) Lまり有 粘性や中 口〜Lに黒泥シリ

0 1/40 2m
 L=103.4m

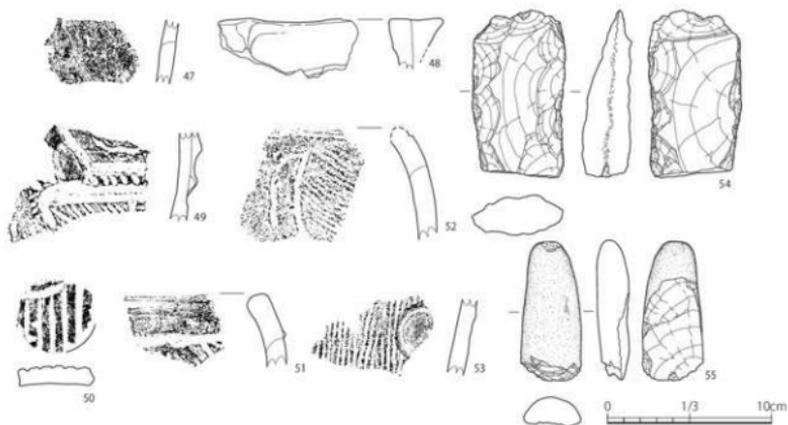
第36図 Pit 322~325・328~334・336~348・350~353



第37図 Pit 354~359・361~365・367~369・371~384



第38図 Pit 385~400



第39図 包含層 出土遺物

第4章 総括

土器について

今回の調査では縄文時代中期初頭（五領ヶ台式）、中期中葉（勝板式）、中期後半（曾利式・加曾利E式）、後期初頭（称名寺式）の遺物が認められた。その中でも主体となるのは中期中葉の勝板式である。現在、勝板式は落沢式期、新道式期、藤内式期、井戸尻式期と細分されているが、今回の調査では井戸尻式がその主体を占めている。しかし、後続する曾利式もしくは加曾利E式の土器は多くなく、曾利V式の土坑SK302において比較的大きな破片が出土したものの、面的な広がりは見られない。そして、称名寺式の土器を最後に瀬ノ内式期までは継続しないものと考えられる。

遺構について

今回の調査では竪穴建物跡は1軒（SB101）しか検出されなかった。時期は出土遺物から縄文時代中期中葉の井戸尻式期と考えられる。また、同じく中期中葉の遺物が多く出土した溝2条（SD101・SD102）は、軟弱な地層が削られたことによって形成された落ち込みと考え

られ、中期初頭（五領ヶ台式）や後期初頭（称名寺式）の遺物も少数混入している。また、今回の調査では、ピットが280基検出されている。調査中より、覆土の違いや深さなどの検討から建物跡の組み合わせを検討したものの、明確な組み合わせを提示することが出来なかった。今後の課題である。

今回の調査地点の西側には湧水をもつ幅20～40m程度の谷が存在する。この谷の湧水を意識して集落形成がなされたものと考えられるが、その様相は谷の東西では異なるようである。谷の西側には、天間沢遺跡A地区（第1地区）・B地区（第2地区）・C地区（第3地区）・F地区（第6地区）が展開している。その開始時期は、藤内式段階と考えられ、曾利式最終段階の土器が出土しており、継続的な集落形成が想定される。その一方で谷の東側にあたる今回の調査区（第40地区）や横道下地区（第23地区）では、井戸尻式段階の土器が多く、また、竪穴建物跡も面的には広がっていない。谷の東西を挟んだ様相の違いは、富士山の新期溶岩流の有無による居住のしやすさに関係する可能性もあろう。

	東海		関東	天間沢遺跡		ジンザン沢遺跡	箕輪A遺跡	瀬戸遺跡	若宮遺跡	代官塚遺跡	上石敷遺跡	石敷遺跡
	西部	東部	東部	A B C F 地区	40 地区							
中期	北裏C ～ 北屋敷	五領ヶ台		■	■	(早期)	■	■	(早期)	(早～中期初)	(早～中期初)	(早期)
		勝沢										
		新道										
		藤内(古・新)										
		井戸尻										
中 期	中 宮 神 明	I	1	■	■	■	■	■	(早期)	(早～中期初)	(早期)	
		II	2									
		曾利 III	3									
		IV	4									
		加曾利 E V	5									
後 期	中 津 堀 田 K II 緑 帯 文 凹 線 文 系	称名寺		■	■			■				
		堀之内 1										
		2										
		加曾利 B 1										
		2										
高井東												

第40図 天間沢遺跡と周辺の縄文時代遺跡の時期

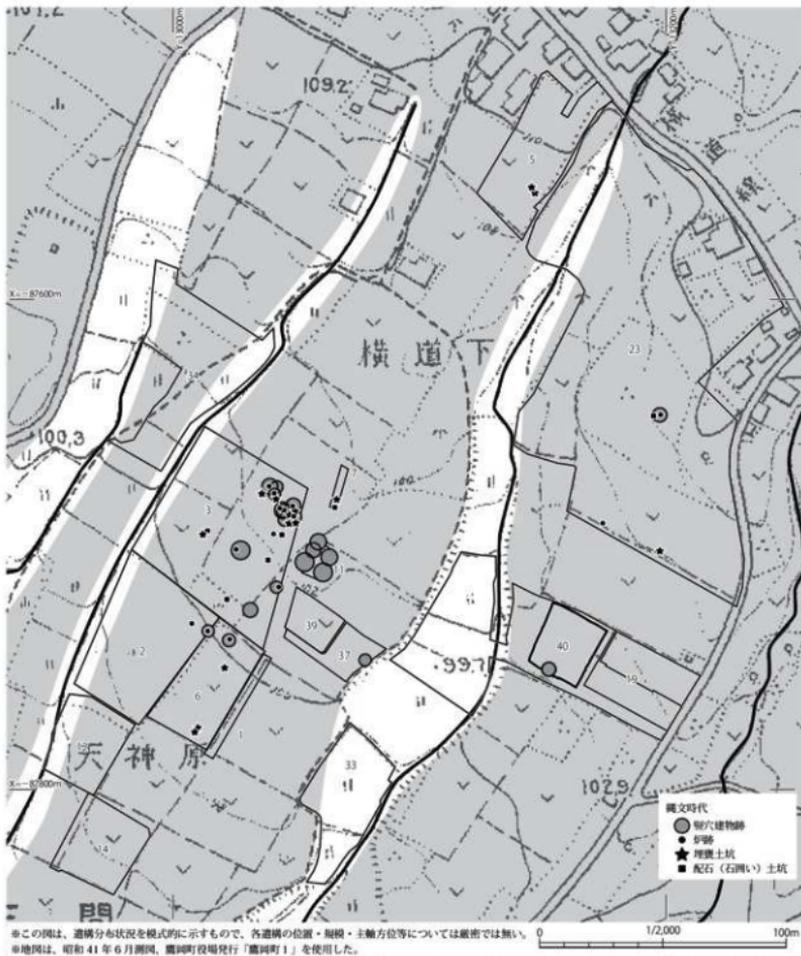
最後に

富士山麓の遺跡分布の時期ごとの遺構数を検討した篠原(2011)によれば、曾利Ⅱ・Ⅲ式では富士山麓の遺跡数は低調である一方で、曾利Ⅳ・Ⅴ式では増加傾向に転じることが明らかとなっており、今回の調査地点での様相と一致している。その様相が、富士山の噴火と関係するものなのかということについては、天間沢遺跡と似

た様相を示す富士宮市滝戸遺跡や箕輪A遺跡の動向などと合わせて検討していかなければならない課題である。

参考文献

篠原 武 2011「富士山の火山活動と遺跡の消長・分布について」『上野地新屋敷遺跡』富士吉田市教育委員会



第41図 天間沢遺跡中心部の遺構分布状況

付表 土坑・ピット 一覧表

※土層について

A → Ⅲ (7.5YR1.7/1) しまり有 粘性無 赤色粒子中量
 B → Ⅲ局 (7.5YR2/2) しまりやや有 粘性やや有 赤色粒子少量
 C → Ⅲ局 (7.5YR3/3) しまり有 粘性やや有 ロームに黒混じり

遺構番号	種別	規模(長×短×深)	断面形状	遺物	土層
101	Pit	64×40×40	平底(逆台形)	R075	B
102	Pit	21×16×17	丸底(U字形)		C
103	Pit	21×19×20	丸底(U字形)		B
104	Pit	20×19×18	丸底(U字形)		B
105	Pit	22×20×10	丸底(U字形)		B
106	Pit	17×12×22	丸底(U字形)		B
107	Pit	17×17×34	丸底(U字形)	R076	B
108	Pit	37×27×9	平底(逆台形)		B
109	Pit	15×15×12	丸底(U字形)		C
110	Pit	38×30×39	平底(逆台形)		C
111	Pit	28×28×15	平底(逆台形)		B
112	Pit	19×17×19	平底(箱形)		B
113	Pit	24×15×18	丸底(U字形)		C
114	Pit	22×14×13	丸底(U字形)		B
115	Pit	19×15×12	丸底(U字形)		B
116	Pit	19×17×12	平底(逆台形)		B
117	Pit	18×17×13	丸底(U字形)		C
118	Pit	16×13×12	丸底(U字形)		B
119	Pit	28×24×37	平底(箱形)	R077	B
120	Pit	18×16×22	平底(箱形)		B
121	Pit	21×19×20	平底(箱形)		C
122	Pit	40×33×29	平底(逆台形)		A
123	Pit	28×27×23	丸底(U字形)		A
124	Pit	40×35×34	平底(逆台形)		C
125	Pit	46×40×20	平底(逆台形)		B
126	SK	77×57×24	平底(逆台形)	R078	A
127	Pit	20×17×24	丸底(U字形)		C
128	Pit	19×16×20	丸底(U字形)		B
129	Pit	21×19×21	丸底(U字形)		B
130	Pit	22×18×21	丸底(U字形)		B
131	Pit	16×15×14	丸底(U字形)		B
132	Pit	23×20×26	丸底(U字形)		C
133	Pit	23×22×31	丸底(U字形)		B
134	Pit	15×13×11	丸底(U字形)		B
135	Pit	22×15×24	丸底(U字形)		B
136	Pit	15×12×10	丸底(U字形)		C
137	Pit	22×20×24	平底(箱形)	R079	B
138	Pit	25×20×25	丸底(U字形)		B
139	Pit	19×17×23	平底(箱形)		B
140	Pit	22×18×24	丸底(U字形)		B
141	Pit	22×20×22	丸底(U字形)		B
142	Pit	32×26×19	丸底(U字形)		B
143	Pit	23×21×14	平底(箱形)		C
144	Pit	23×23×21	丸底(U字形)		B
145	Pit	23×22×16	丸底(U字形)	R165	B
146	Pit	19×17×21	丸底(U字形)		B
147	Pit	28×20×21	丸底(U字形)		C
148	Pit	28×24×26	丸底(U字形)		B
149	Pit	25×19×13	丸底(U字形)		B
150	Pit	32×31×20	丸底(U字形)		C
151	Pit	31×28×19	平底(逆台形)		B
152	Pit	27×21×36	丸底(U字形)		C
153	SK	69×67×17	平底(箱形)		B
154	Pit	25×25×21	平底(逆台形)		B

遺構番号	種別	規模(長×短×深)	断面形状	遺物	土層
155	Pit	18×18×14	丸底(U字形)	R166	C
156	SK	210×161×44	丸底(U字形)		A
157	SK	223×156×64	平底(逆台形)	R208	A
158	Pit	22×16×24	丸底(U字形)	R210	B
159	Pit	25×21×17	丸底(U字形)		C
160	Pit	26×21×19	丸底(U字形)		C
161	Pit	16×14×22	丸底(U字形)		B
162	Pit	21×19×21	平底(逆台形)		C
163	Pit	20×17×18	丸底(U字形)		B
164	Pit	18×17×24	丸底(U字形)		B
165	Pit	18×16×16	丸底(U字形)		B
166	Pit	14×11×18	丸底(U字形)		B
167	Pit	23×21×16	丸底(U字形)	R250	B
168	Pit	30×22×16	丸底(U字形)		C
169	Pit	21×17×22	丸底(U字形)	R251	C
170	Pit	20×18×19	丸底(U字形)		B
171	SK	98×67×12	平底(逆台形)		C
172	Pit	16×16×12	丸底(U字形)		B
173	Pit	34×18×15	丸底(U字形)		C
174	Pit	33×24×9	丸底(U字形)		B
175	Pit	16×14×22	丸底(U字形)		C
176	SK	77×63×38	平底(逆台形)		A
177	SK	64×55×26	平底(逆台形)		B
178	Pit	32×25×16	丸底(U字形)		C
179	SK	96×85×34	丸底(U字形)	R261 R262 R263 R265	A
180	Pit	19×16×32	丸底(U字形)		C
181	Pit	44×35×11	平底(逆台形)		B
182	Pit	26×14×17	丸底(U字形)		C
183	Pit	32×27×24	丸底(U字形)		B
184	Pit	20×20×24	丸底(U字形)		C
185	Pit	22×21×29	丸底(U字形)		C
186	Pit	43×43×20	丸底(U字形)		C
187	Pit	28×24×12	丸底(U字形)		C
188	Pit	36×29×29	平底(箱形)		B
189	Pit	27×25×22	丸底(U字形)		B
190	Pit	22×17×19	丸底(U字形)		A
191	Pit	42×26×28	丸底(U字形)		A
192	Pit	26×25×31	丸底(U字形)		C
193	Pit	31×30×13	丸底(U字形)	R266	B
194	Pit	33×24×20	丸底(U字形)	R272	B
195	Pit	22×20×49	丸底(U字形)		B
196	Pit	24×26×25	丸底(U字形)		B
197	Pit	18×16×18	平底(箱形)		B
198	Pit	40×36×65	丸底(U字形)		B
199	Pit	24×22×21	丸底(U字形)		B
200	SK	66×58×16	丸底(U字形)		B
201	Pit	22×20×23	平底(箱形)		B
202	Pit	36×35×20	平底(逆台形)		B
203	Pit	20×20×22	丸底(U字形)		B
204	Pit	31×27×24	平底(逆台形)		B
205	Pit	29×25×24	平底(逆台形)		B
206	Pit	20×15×23	平底(箱形)		B
207	Pit	18×17×25	丸底(U字形)		B
208	Pit	26×22×34	丸底(U字形)		C
209	Pit	24×22×30	平底(箱形)		B
210	Pit	26×24×45	丸底(U字形)		C

遺構番号	種類	規模 (長×短×深)	断面形状	遺物	土層
211	SK	96×78×16	平底 (逆台形)	B	
212	Pit	34×33×24	平底 (逆台形)	B	
213	Pit	30×25×15	丸底 (U字形)	C	
214	Pit	26×22×20	丸底 (U字形)	C	
215	Pit	27×23×45	丸底 (U字形)	C	
216	Pit	35×31×13	丸底 (U字形)	B	
217	Pit	54×45×21	丸底 (U字形)	C	
218	Pit	21×21×34	丸底 (U字形)	B	
219	Pit	60×53×11	丸底 (U字形)	C	
220	Pit	25×24×25	平底 (逆台形)	B	
221	Pit	64×53×46	丸底 (U字形)	C	
222	SK	61×66×19	丸底 (U字形)	B	
223	Pit	38×37×13	丸底 (U字形)	C	
224	SK	71×62×33	丸底 (U字形)	B	
225	Pit	21×19×28	丸底 (U字形)	B	
226	Pit	46×34×14	丸底 (U字形)	B	
227	Pit	26×23×30	平底 (箱形)	B	
228	Pit	32×30×26	丸底 (U字形)	B	
229	Pit	34×32×41	平底 (箱形)	C	
230	Pit	21×18×13	平底 (逆台形)	C	
231	Pit	26×19×18	丸底 (U字形)	C	
232	Pit	28×22×21	平底 (箱形)	C	
233	SK	181×114×14	平底 (逆台形)	B	
234	Pit	35×21×37	丸底 (U字形)	B	
235	Pit	36×20×37	丸底 (U字形)	C	
236	Pit	27×24×35	丸底 (U字形)	C	
237	Pit	32×16×46	丸底 (U字形)	B	
238	Pit	19×17×43	丸底 (U字形)	B	
239	Pit	28×21×13	丸底 (U字形)	B	
240	Pit	24×21×24	丸底 (U字形)	R292	B
241	Pit	39×30×41	丸底 (U字形)	B	
242	Pit	26×22×15	丸底 (U字形)	B	
243	Pit	30×29×39	平底 (逆台形)	B	
244	Pit	22×18×39	丸底 (U字形)	C	
245	Pit	30×30×25	丸底 (U字形)	B	
246	Pit	17×14×10	丸底 (U字形)	B	
247	Pit	26×25×54	丸底 (U字形)	B	
248	Pit	30×27×26	丸底 (U字形)	B	
249	Pit	24×18×36	丸底 (U字形)	C	
250	Pit	23×23×48	丸底 (U字形)	C	
251	Pit	32×22×46	丸底 (U字形)	C	
252	Pit	26×22×32	丸底 (U字形)	B	
253	Pit	32×27×22	丸底 (U字形)	B	
254	Pit	27×25×23	平底 (逆台形)	B	
255	Pit	43×37×32	丸底 (U字形)	B	
256	Pit	29×26×23	平底 (逆台形)	R293	B
257	Pit	34×30×30	丸底 (U字形)	B	
258	Pit	21×20×39	丸底 (U字形)	C	
259	Pit	23×22×21	丸底 (U字形)	C	
260	Pit	30×29×26	平底 (逆台形)	B	
261	Pit	32×32×23	丸底 (U字形)	C	
262	Pit	57×41×34	平底 (箱形)	B	
263	Pit	31×24×31	丸底 (U字形)	B	
264	Pit	48×46×22	丸底 (U字形)	C	
265	Pit	48×48×80	平底 (逆台形)	R309	A
266	Pit	30×25×32	平底 (逆台形)	R308	B
267	Pit	25×24×18	丸底 (U字形)	B	
268	Pit	26×24×14	平底 (逆台形)	B	

遺構番号	種類	規模 (長×短×深)	断面形状	遺物	土層
269	Pit	33×30×12	丸底 (U字形)		C
270	Pit	26×23×24	丸底 (U字形)		C
271	Pit	21×20×24	丸底 (U字形)	R323	B
272	Pit	24×20×40	丸底 (U字形)		B
273	Pit	33×30×29	平底 (箱形)	R310	B
274	Pit	42×39×27	平底 (逆台形)	R311	B
275	Pit	28×23×37	丸底 (U字形)		B
276	Pit	29×21×36	丸底 (U字形)		B
277	Pit	36×30×41	丸底 (U字形)	R326	B
278	Pit	28×24×27	丸底 (U字形)	R312	B
279	Pit	46×37×29	丸底 (U字形)	R324	B
280	Pit	53×40×25	平底 (逆台形)		B
281	Pit	20×18×28	平底 (箱形)		C
282	Pit	32×24×29	丸底 (U字形)		C
283	Pit	40×18×26	丸底 (U字形)		B
284	Pit	48×42×36	丸底 (U字形)		B
285	Pit	26×25×22	丸底 (U字形)		C
286	Pit	46×33×24	平底 (逆台形)		B
287	Pit	31×26×24	丸底 (U字形)		C
288	Pit	22×20×20	丸底 (U字形)		B
289	Pit	26×23×31	平底 (逆台形)		B
290	Pit	26×25×33	丸底 (U字形)		C
291	Pit	24×22×19	平底 (逆台形)		B
292	Pit	18×15×16	丸底 (U字形)		C
293	Pit	29×24×38	丸底 (U字形)		B
294	Pit	30×28×15	平底 (逆台形)		B
295	Pit	40×32×25	丸底 (U字形)		B
296	Pit	41×35×24	丸底 (U字形)		B
297	Pit	35×29×39	丸底 (U字形)	R325	B
298	Pit	22×20×15	丸底 (U字形)		C
299	Pit	21×19×23	丸底 (U字形)		C
300	Pit	28×23×19	丸底 (U字形)		C
301	Pit	17×16×30	丸底 (U字形)		C
302	SK	105×88×27	平底 (箱形)	R335	B
303	Pit	21×20×15	丸底 (U字形)		C
304	Pit	22×21×18	丸底 (U字形)		C
305	Pit	23×19×30	丸底 (U字形)		C
306	Pit	23×18×22	丸底 (U字形)		B
307	Pit	22×20×16	丸底 (U字形)	R327	C
308	Pit	72×54×16	平底 (逆台形)		B
309	Pit	45×34×13	丸底 (U字形)		B
310	Pit	45×43×8	丸底 (U字形)		B
311	Pit	36×36×21	丸底 (U字形)		A
312	Pit	27×20×16	丸底 (U字形)		C
313	Pit	23×18×18	丸底 (U字形)		B
314	Pit	25×22×24	丸底 (U字形)		B
315	Pit	24×20×17	丸底 (U字形)		B
316	Pit	64×45×22	丸底 (U字形)	R338	B
317	Pit	21×20×27	平底 (箱形)		C
318	Pit	35×26×28	丸底 (U字形)		B
319	Pit	30×24×13	丸底 (U字形)	R339	B
320	Pit	44×26×21	丸底 (U字形)		B
321	Pit	44×39×8	丸底 (U字形)	R340	C
322	Pit	18×16×9	丸底 (U字形)		B
323	Pit	23×22×15	丸底 (U字形)		B
324	Pit	37×29×17	丸底 (U字形)		B
325	Pit	26×25×13	丸底 (U字形)		B
326	SK	124×110×23	丸底 (U字形)		A

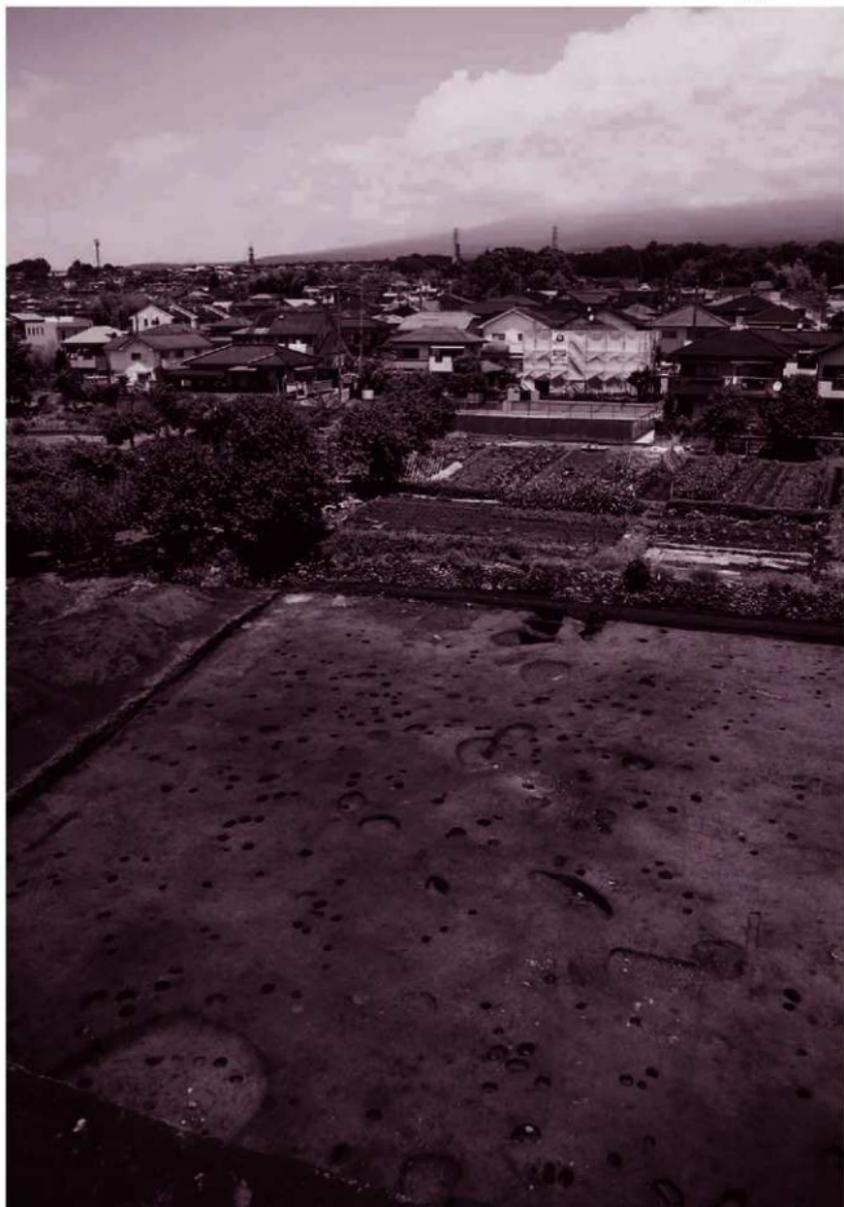
遺物番号	種類	規格 (長×短×深)	断面形状	遺物	土層
327	SK	238×80×36	平底 (船形)		C
328	Plt	55×30×13	丸底 (U字形)		B
329	Plt	24×23×14	丸底 (U字形)		B
330	Plt	26×20×11	丸底 (U字形)		B
331	Plt	23×21×18	平底 (進台形)		B
332	Plt	20×18×24	平底 (進台形)		B
333	Plt	20×17×18	丸底 (U字形)		B
334	Plt	35×30×43	丸底 (U字形)	R341	B
335	SK	84×51×35	丸底 (U字形)		B
336	Plt	54×52×21	丸底 (U字形)		B
337	Plt	21×19×23	丸底 (U字形)		B
338	Plt	35×31×32	平底 (進台形)		B
339	Plt	32×23×23	丸底 (U字形)		B
340	Plt	24×24×47	平底 (進台形)		B
341	Plt	33×31×32	平底 (進台形)		B
342	Plt	24×23×22	丸底 (U字形)		B
343	Plt	23×19×24	丸底 (U字形)		B
344	Plt	26×19×23	丸底 (U字形)		C
345	Plt	49×37×13	丸底 (U字形)		C
346	Plt	34×26×33	丸底 (U字形)		C
347	Plt	54×44×14	丸底 (U字形)		C
348	Plt	23×17×27	丸底 (U字形)		C
349	SK	122×100×16	平底 (船形)		C
350	Plt	42×39×20	丸底 (U字形)		B
351	Plt	34×34×24	丸底 (U字形)		B
352	Plt	32×30×31	丸底 (U字形)		B
353	Plt	25×24×15	丸底 (U字形)		B
354	Plt	24×20×12	丸底 (U字形)		B
355	Plt	38×31×23	平底 (進台形)		B
356	Plt	31×30×53	丸底 (U字形)		B
357	Plt	37×28×22	丸底 (U字形)		C
358	Plt	26×22×24	丸底 (U字形)		B
359	Plt	28×21×48	平底 (船形)		B
360	SK	103×74×24	丸底 (U字形)		B
361	Plt	29×28×21	丸底 (U字形)		B
362	Plt	18×15×16	丸底 (U字形)		B
363	Plt	31×27×40	平底 (進台形)		B

遺物番号	種類	規格 (長×短×深)	断面形状	遺物	土層
364	Plt	36×25×32	丸底 (U字形)		B
365	Plt	29×26×37	平底 (進台形)		B
366	Plt	16×13×26	平底 (船形)	R343	A
367	Plt	38×30×58	平底 (船形)		B
368	Plt	26×22×46	丸底 (U字形)		B
369	Plt	60×43×37	丸底 (U字形)		B
370	SK	87×74×25	丸底 (U字形)		B
371	Plt	21×21×24	平底 (進台形)		B
372	Plt	26×25×31	丸底 (U字形)		B
373	Plt	22×20×44	丸底 (U字形)		A
374	Plt	24×22×23	丸底 (U字形)		A
375	Plt	32×25×43	丸底 (U字形)		A
376	Plt	22×21×23	丸底 (U字形)		B
377	Plt	23×21×21	平底 (船形)		B
378	Plt	30×29×28	丸底 (U字形)		B
379	Plt	30×22×35	平底 (船形)		B
380	Plt	26×23×34	丸底 (U字形)		B
381	Plt	29×24×17	丸底 (U字形)	R344	A
382	Plt	21×20×26	丸底 (U字形)		C
383	Plt	23×20×25	丸底 (U字形)		A
384	Plt	38×33×24	丸底 (U字形)		B
385	Plt	36×31×25	平底 (進台形)		B
386	Plt	26×24×27	丸底 (U字形)		B
387	Plt	38×34×22	丸底 (U字形)		B
388	Plt	30×27×22	丸底 (U字形)		B
389	Plt	46×40×17	丸底 (U字形)		C
390	Plt	27×24×24	丸底 (U字形)		B
391	Plt	23×20×16	平底 (船形)		B
392	Plt	55×46×21	平底 (進台形)		B
393	Plt	32×30×50	丸底 (U字形)		C
394	Plt	33×25×38	丸底 (U字形)		A
395	Plt	26×43×15	丸底 (U字形)		C
396	Plt	25×21×13	丸底 (U字形)		C
397	Plt	33×30×33	丸底 (U字形)		B
398	Plt	29×28×18	丸底 (U字形)		B
399	Plt	25×23×12	丸底 (U字形)		B
400	Plt	37×36×26	平底 (進台形)		B

付表 出土遺物観察表

調査 期日	図版 番号	遺物 番号	部位	R番号	時代	特徴	備考
第14回	PL.7	1	SB101 腹上1	314	丹戸Ⅱ	口縁部把手、肩巻き状突起、陶帯上に交互刺突、沈没。	
第14回	PL.7	2	SB101 腹上1	290	丹戸Ⅱ	陶帯上腹面、横位に爪形交互刺突、それを挟んで腹位に鋭い爪形文、施紋線文、磨石を多く含む。	土層円筒の可能性
第14回	PL.7	3	SB101 腹上1	278	丹戸Ⅱ+加曾利E	RL 陶文を施文。	
第14回	PL.7	4	SB101 腹上1	280・281・282 283・284	丹戸Ⅱ	小型、高モチーフの突起、4単位か？ 鋭い陶帯で波状を施文、陶帯に沿って沈没。 太い陶帯上に爪形刺突。	
第14回	PL.7	5	SB101 腹上1	273	北原C～北原敷	キヤビラール文 (三角刺突)	
第14回	PL.7	6	SB101 腹上1	328	新造	陶帯の部にセリ上がるように幅広い連続爪形刺突で区画、沈没で光沢。	
第14回	PL.7	7	SB101 腹上1	285			磨石 (矽石)
第14回	PL.7	8	SB101 腹上1	329			打割石岸 (砂岩)
第16回	PL.7	9	SD101	24	五領×台Ⅱ	薄手、折り返し口縁、平行沈没。	
第16回	PL.7	10	SD101	121	五領×台	口縁部、腹位に細線文、陶帯を多く含む。	
第16回	PL.7	11	SD101	3	五領×台	口縁部、鋭い浮線文	
第16回	PL.7	12	SD101	187	不明	裏下する陶帯で区画文様、表面全面、朱塗り。	朱塗り
第16回	PL.7	13	SD101	271	北原敷	薄手、連続三角刺突を波状に施文。	

扉目	図版	報告書番号	遺物番号	部位	目録番号	時代	特徴	備考
第16回	PL.7	14	SD101		19・31・32・38・109 115・120・238・239 240・241・242・270 365・366・369	北原敷	無文、薄手、裏縁を含む。	
第16回	PL.7	15	SD101		223	弥沢～新道	細い棒状工具先で連続研削、磨きき・直縁で文様を施文。	
第16回	PL.7	16	SD101		111	新道	重三角区画、隣帯の帯に沿って細かく、浅い爪形連続研削が二道に施文、裏縁が多く含む。	
第16回	PL.7	17	SD101		188	藤内	隣帯上に細かく浅い矢羽状に連続研削、横位小波状沈線、地紋は織文磨り消し。	
第16回	PL.7	18	SD101		1	舟戸尻	口縁内側に磨り付、上面は隣帯に1つは細かい爪形磨み、1つは太くて粗い交互研削、沈線でモチーフ、側面は隣帯に1つは磨み、1つは縦・横に粗い交互研削、隣帯沿って沈線、地紋は織文。	
第16回	PL.7	19	SD101		235	舟戸尻	口縁部周囲に波状に磨り付、上部は低隣帯・沈線で平円モチーフ、側面は隣帯に粗い交互研削、隣帯に沿って上下に沈線。	
第16回	PL.7	20	SD101		190	舟戸尻	口縁部、平行沈線上に斜位にくし型工具で縦位に施文、裏縁多く含む。	
第16回	PL.7	21	SD101		213	舟戸尻	口縁内側に磨り付、上部は低隣帯・沈線でモチーフ、側面は隣帯で区画文を施文、隣帯に沿って沈線。	
第16回	PL.7	22	SD101		256	舟戸尻	口縁部、内側磨み、棒状工具で上から斜位に施文、外側、隣帯・沈線で施文、地紋織文。	
第16回	PL.7	23	SD101		229	舟戸尻	口縁部磨り付け把手、隣帯に粗い磨み、輪溝み部分から裏縁、裏縁多く含む。	
第16回	PL.7	24	SD101		221	舟戸尻	平らな白料部が内側に張り出す、側面は垂下する太い隣帯に粗削りの粗い磨み。	
第16回	PL.7	25	SD101		13	舟戸尻	沈線に沿って矢羽状の連続研削、太い沈線で磨きき・直縁を磨き、細い沈線で方眼状の文様を描く。	
第16回	PL.7	26	SD101		16	舟戸尻	太い沈線で磨きき突起、側面に沈線・磨み、隣帯で横位に区画、隣帯上に交互研削、隣帯に沿って沈線、横位二区画内を集合沈線で充填、内湾した口縁部、地紋はLR織文。	
第16回	PL.7	27	SD101		219	舟戸尻	平行沈線、区画する低隣帯上に交互研削、横削形磨み、区画内に沈線で円形、直縁を施文。	
第16回	PL.7	28	SD101		228	舟戸尻	平行沈線、区画する低隣帯上に交互研削、横削形磨み、区画内に沈線で円形、直縁を施文。	
第16回	PL.7	29	SD101		14	加曾利E2-3	低隣帯、沈線地紋は磨み無文	
第17回	PL.8	30	SD101		119	藤原?	底面	
第17回	PL.8	31	SD101		192	藤原?	底面	
第17回	PL.8	32	SD101		220	藤原?	浅縁底面	
第17回	PL.8	33	SD101		17・100・102・363・364	不明	浅縁底面	
第17回	PL.8	34	SD101		7			打製石片(群石)
第19回	PL.8	35	SD102		245	弥沢～新道	低隣帯上と隣帯に沿って二段にわたる、先端が薄く、平な工具による浅く、細かい連続研削。	
第19回	PL.8	36	SD102		173	藤内	把手部分、上面に棒状工具で曲線を磨き、側面は一本づつ縦位に沈線、地紋LR、織文。	
第19回	PL.8	37	SD102		204	舟戸尻	口縁部突起、重三角区画、区画内低隣帯で施文、隣帯に沿って沈線。	
第19回	PL.8	38	SD102		362	舟戸尻	口縁部、無文。	
第19回	PL.8	39	SD102		179	舟戸尻	口縁部、無文。	
第19回	PL.8	40	SD102		143	舟戸尻	重三角区画文、隣帯に沿った沈線、垂下する沈線、浅く、圓縁の広い磨み、腰の張る器形、上部に隣帯に沿った平行沈線、縦方向の磨み、輪溝みから裏縁。	
第19回	PL.8	41	SD102		147	舟戸尻		
第19回	PL.8	42	SD102		167	孫名寺	細い棒状工具、沈線で曲線のモチーフを施文、磨り多き含む。	
第19回	PL.8	43	SD102		156	舟戸尻	低隣帯に沿った沈線、沈線で直縁的な文様。	土製円盤
第22回	PL.8	44	NR101	Ⅲ	358	舟戸尻	隣帯で区画、隣帯上に横削形で粗い磨み、隣帯に沿った沈線、区画内に沈線で文様を施文。	
第25回	PL.8	45	SK157		208	舟戸尻	低隣帯で区画、隣帯上に粗い磨み、隣帯に沿って沈線、区画内沈線で施文、表面磨滅。	
第25回	PL.8	46	SK202		335	曾利V	4単位波状口縁、へう状工具による曲線で区画、区画内への字文で充填。	
第30回	PL.8	47		Ⅲ	320	大瀬野7	横縁が現る竹管工具で縦位に施文、重海系の上か?	
第30回	PL.8	48		Ⅲ	74	舟戸尻	口縁部突起。	
第30回	PL.8	49		Ⅳ	70	舟戸尻	隣帯と磨り付結合で区画、隣帯上に爪形の磨み、隣帯に沿った沈線、区画内を沈線で充填、地紋は織文磨り消し、浅い沈線で曲線を描く。	
第30回	PL.8	50			41	舟戸尻	竹管状工具による平行沈線と曲線の沈線で施文。	土製円盤
第30回	PL.8	51		Ⅲ	66	曾利V	低隣帯を帯で、沈線で施文。	
第30回	PL.8	52		Ⅲ	67	加曾利E4	平行沈線、地紋は隣帯磨り消し、へう状工具で曲線を施文、輪溝みで裏縁。	
第30回	PL.8	53		Ⅲ	73	加曾利E4	縦方向の磨み、径3cm程度の円形にナゲ消す。	
第30回	PL.8	54			352			打製石片(群石)
第30回	PL.8	55	表録	47				銀石(群石?)



1. 調査区完照全景（南から）

PL.2 調査



1. 遺構検出 (北東から)



3. 5 Tr 東西セクション北壁 (南から)



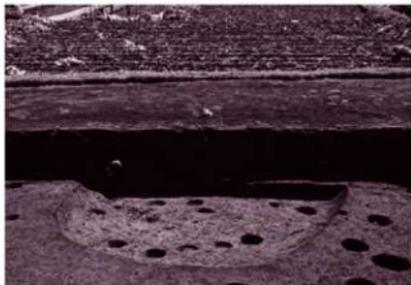
2. TP 完掘全景 (南西から)



4. 調査区完掘全景 (南東から)



1. SB101検出 (北から)



2. SB101完掘 (北から)



3. SB101遺物 (1) 検出 (南西から)



4. SB101南北セクション東壁 (北東から)



5. SB101遺物検出 (北西から)

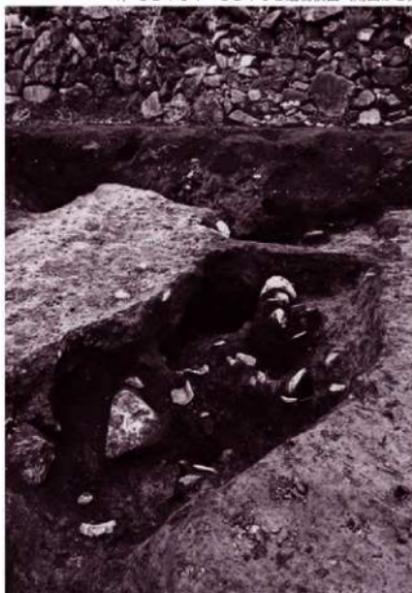
PL.4 調査



1. SD101・SD102遺物検出 (南西から)



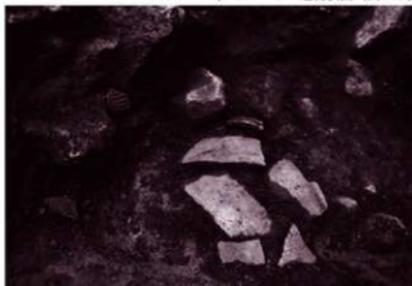
2. SD101完掘 (南から)



3. SD101遺物検出 (南から)



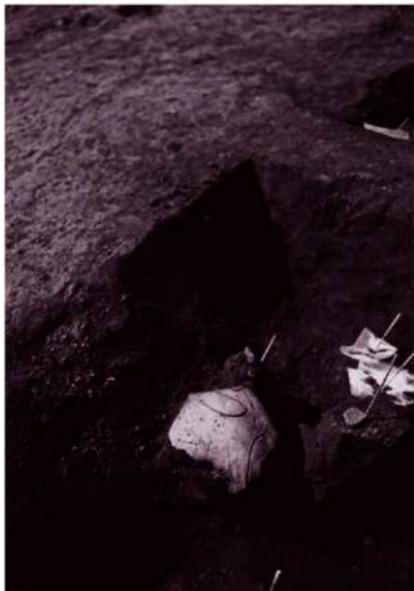
4. SD101遺物検出 (西から)



5. SD101遺物検出 (南東から)



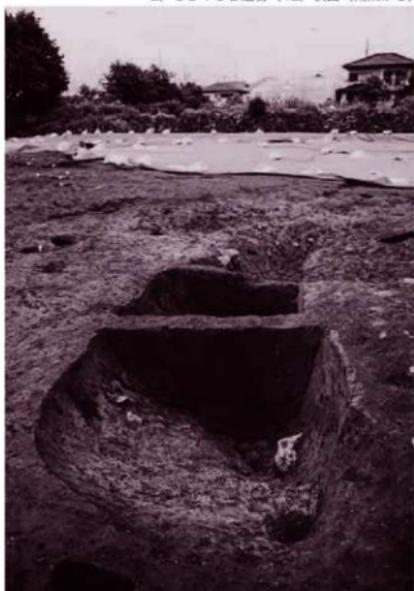
1. SD102完掘 (南から)



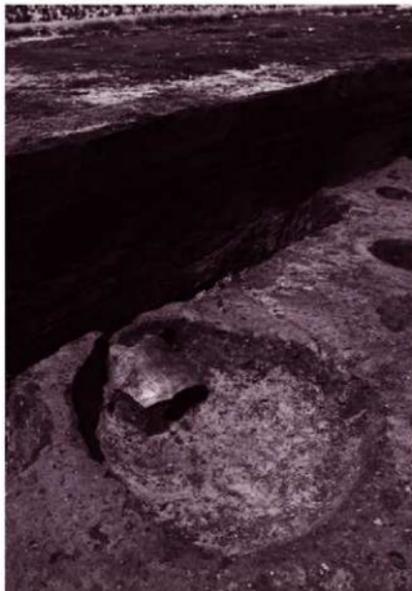
2. SD102遺物 (42) 検出 (南東から)



3. NR101完掘 (北東から)



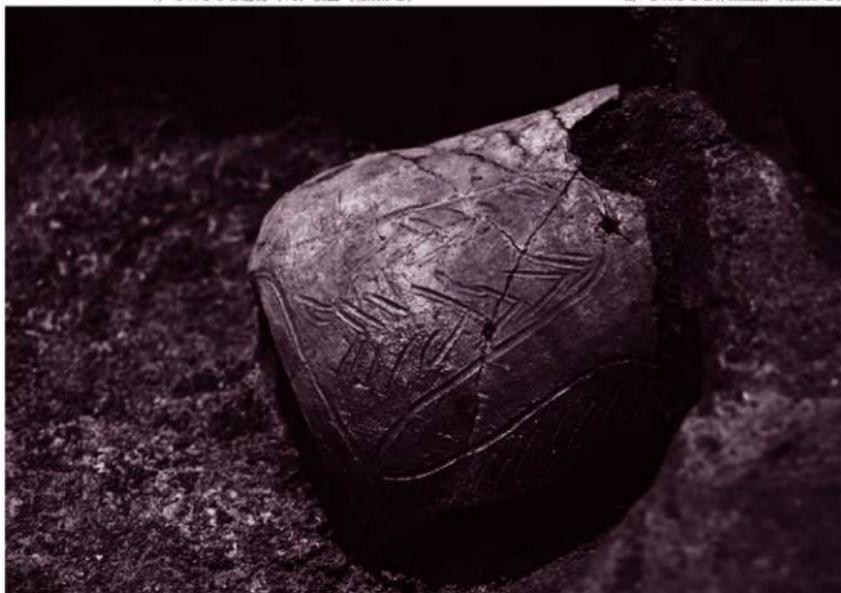
4. SD103東西セクション北壁 (南から)



1. SK302遺物(46)検出(北東から)



2. SK302作業風景(北東から)

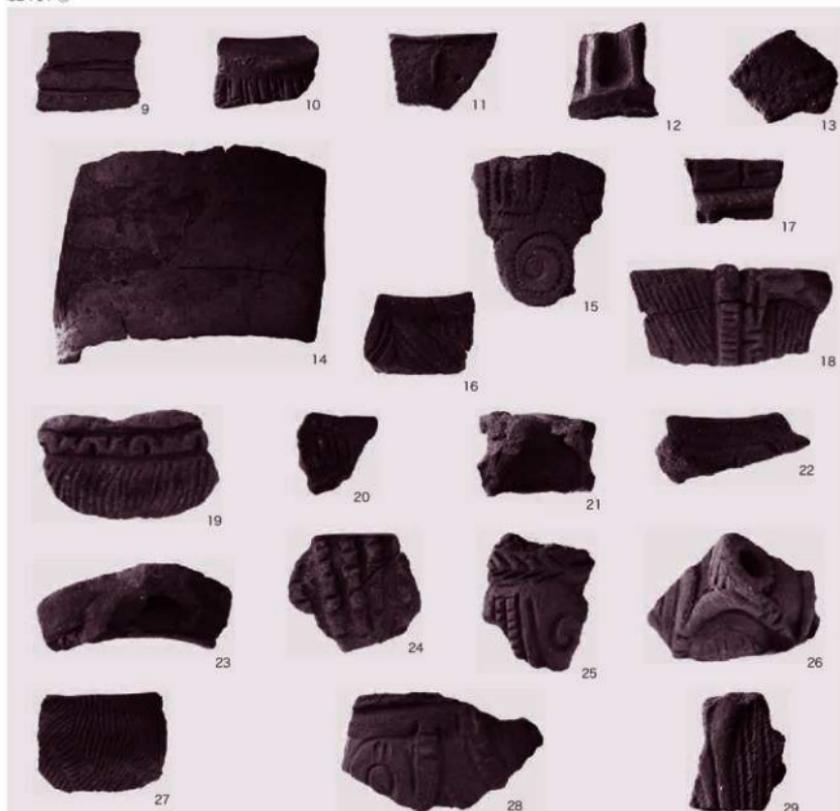


3. SK302遺物(46)検出(西から)

SB101

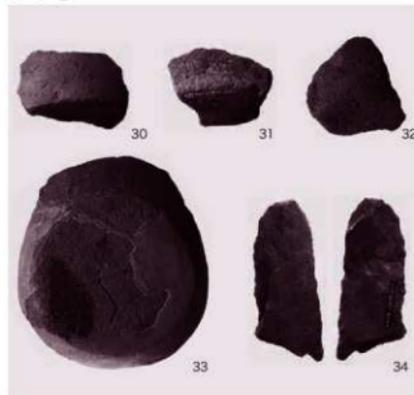


SD101 ①

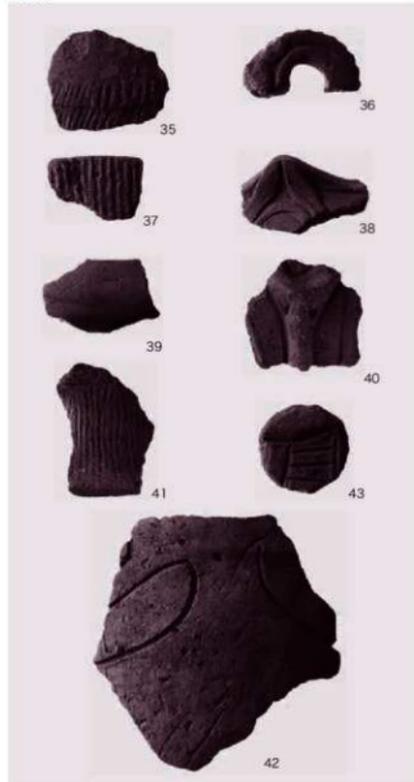


PL.8 出土遺物

SD101 ②



SD102



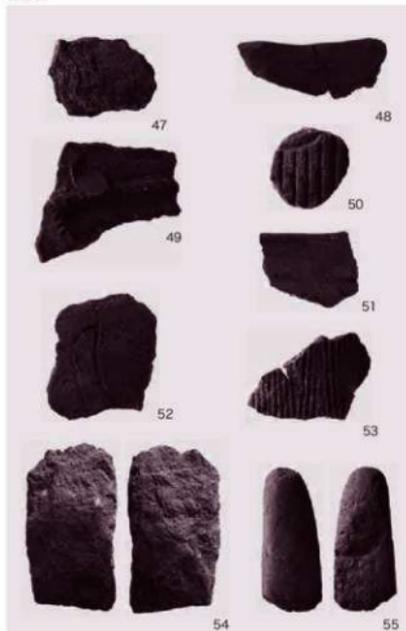
NR101



SK157.SK302



包含層



報告書抄録

ふりがな	てんまざわいせき
書名	天間沢遺跡
副書名	集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	富士市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第58集
編著者名	佐藤祐樹
編集機関	富士市教育委員会（担当課：文化振興課）
所在地	〒417-8601 静岡県富士市永田町1丁目100番地 TEL. 0545-55-2875
発行年月日	平成28年2月1日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	地区名	調査期間	発掘面積 (㎡)	発掘原因
		市町村	遺跡番号						
てんまざわ いせき	しずおかけん ふじし てんま	22210	7	35°12'33"	138°38'40"	第40地区	20140722 /	99	確認調査
							20140728 /		
							20140818 /	65	確認調査
天間沢遺跡	静岡県 富士市 天間						20150511 /	646.4	本発掘調査
20150717									
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
天間沢遺跡	集落跡	縄文時代		竪穴建物跡 1 溝 3 土坑 20 ビット 280		縄文土器 石器			
要約	<p>天間沢遺跡は富士山南西麓に位置し、火山麓扇状地に位置する縄文時代を中心とした集落遺跡である。遺跡の北側は13,760±300yr.B.P.に噴出した新富士旧期に位置づけられる「大淵溶岩」で覆われ、さらに6,000yr.B.P.頃に噴出したと考えられる入山瀬溶岩によって分割された扇状地の西側に位置する。</p> <p>発掘調査は集合住宅（長屋）建設に先立つ事前調査として実施した。調査の結果、縄文時代中期中葉の井戸尻式期の竪穴建物跡1軒（SB101）しか検出されなかったものの、SD101などの遺構から縄文時代中期初頭（五領ヶ台式）、中期中葉（勝坂式）、中期後半（曾利式・加曾利E式）、後期初頭（称名寺式）の遺物が認められた。その中でも主体となるのは中期中葉の勝坂式である。</p>								

富士市埋蔵文化財調査報告 第58集

天間沢遺跡

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日 平成28年2月1日

編集・発行 富士市教育委員会
〒417-8601 静岡県富士市永田町一丁目100番地
TEL 0545-55-2875 FAX 0545-53-0789
E-mail: si-bunka@div.city.fuji.shizuoka.jp

印刷・製本 文光堂印刷株式会社
〒410-0871 静岡県沼津市西間門68番地の1

(富士市行政資料登録番号 27-44)